

大阪狭山市文化財報告書31

狭山池5号窯・狭山藩陣屋跡



平成16年(2004年)12月

大阪狭山市教育委員会

狭山池5号窯・狭山藩陣屋跡

平成16年(2004年)12月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には大阪府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、数多くの文化財があります。大阪狭山市教育委員会では、このような文化財の保護をはかるため、市内の発掘調査を継続的に実施してまいりました。平成 15 年度は、南海電気鉄道株式会社により施工される旧さやま遊園跡地の宅地開発に伴いまして、狭山藩陣屋跡の発掘調査を実施しました。また、平成 15 年度から平成 16 年度にかけて、この発掘調査の整理作業を進めてまいりました。本報告書はその成果をまとめたものです。

調査の結果、近世の狭山藩陣屋跡下屋敷にかかる遺構群や造成工事の跡、古墳時代から飛鳥時代にかけて操業していた須恵器窯などが確認されました。本書がわずかでも各分野における研究の一助となれば、まさに望外の喜びです。なお、今回の調査におきましては調査地周辺の皆様方、ならびに開発者の南海電気鉄道株式会社には多くのご協力とご配慮を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも本市文化財保護行政に対するご理解とご支援のほどを、よろしくお願い申し上げます。

平成 16 年 12 月

大阪狭山市教育委員会

教育長 岡 本 修 一

例　　言

1. 本書は大阪狭山市教育委員会が南海電気鉄道株式会社と発掘調査に関する契約を締結し、実施した、さやま遊園跡地宅地開発工事に伴う発掘調査の成果をまとめた報告書である。

2. 収録した調査は以下の通りである。

　　狭山藩陣屋跡 03-01区

　　狭山池 5号窯

3. 発掘調査は平成 15 年 7 月から同年 10 月まで実施し、整理作業は平成 15 年 8 月から平成 16 年 12 月まで実施した。

4. 現地における発掘調査は大阪狭山市教育委員会生涯学習推進課の植田隆司と外業調査員 周藤光代が担当した。遺物の整理と報告書作成には、笹岡裕里子・實まり恵・橋本和美・扶川陽子・若宮美佐の参加協力があった。なお、現地における発掘調査においては、南海電気鉄道株式会社・南海辰村建設株式会社・株式会社島田組の全面的な協力を得た。

5. 現地における写真撮影は、有限会社阿南写真工房 阿南辰秀氏・伊藤慎司氏および植田が担当した。航空写真測量・撮影は南海電気鉄道株式会社・南海辰村建設株式会社の協力を得て株式会社かんこうが実施した。出土遺物の撮影は、有限会社阿南写真工房に依頼した。

6. 発掘調査および整理作業中に以下の諸氏から御指導・御教示を得た。記して感謝を申し上げます。

　　網干善教、勝部明生、木許守、工楽善通、小山田宏一、芝野圭之助、白石太一郎、馬場英明

7. 本書の執筆は、第 3 章第 2 節を大阪狭山市教育委員会社会教育課の市川秀之が、その他を同課の植田が執筆した。編集は植田が担当した。

8. 出土遺物実測図の縮尺率はすべて 1/3 に統一した。写真図版における遺物の縮尺率は不統一である。なお、遺物実測図・遺物写真・遺物観察表中の個体番号は、すべて統一した。

9. 図中の方位は座標方眼北を指す。レベル高は T . P . (東京湾標準潮位) 値による。

10. なお、この調査で出土した遺物および記録図面・写真等は、本市教育委員会にて収蔵・保管している。また、本書の PDF ファイルは本市 Web サイトで公開する予定である。ご活用されたい。

本文目次

(頁)

序 文 大阪狭山市教育委員会教育長 岡本修一

例 言

第1章 位置と環境

 第1節 地理的環境 1

 第2節 歴史的環境 2

第2章 調査にいたる経過 8

第3章 狹山藩陣屋跡03- 01区

 第1節 遺構と層序 9

 第2節 出土遺物 10

第4章 狹山池5号窯

 第1節 窯体 19

 第2節 古代整地土層 23

 第3節 灰原 23

 第4節 土坑 30

 第5節 出土遺物 31

第5章 まとめ 57

報告書抄録 58

表目次

(頁)

第1表 狹山藩陣屋跡03- 01区出土遺物観察表 11

表2表 狹山池5号窯焼成部・燃焼部床面出土遺物観察表 43

表3表 狹山池5号窯灰原出土遺物観察表 44

表4表 狹山池5号窯灰原トレンチ出土遺物観察表 52

表5表 土坑51出土遺物観察表 54

表6表 土坑76出土遺物観察表 54

表7表 土坑78出土遺物観察表 55

表8表 古代整地土層内出土遺物観察表 56

挿図目次

(頁)

第 1 図	大阪狭山市内の遺跡分布と地形分類	6
第 2 図	狭山藩陣屋跡における既存の調査箇所	7
第 3 図	調査区位置図	8
第 4 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区近世遺構平面図	14
第 5 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区調査区北端土層断面図	15
第 6 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区出土遺物 (1)	16
第 7 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区出土遺物 (2)	17
第 8 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区出土遺物 (3)	13
第 9 図	狭山藩陣屋跡 03- 01 区・狭山池 5 号窯平面図	18
第 10 図	狭山池 5 号窯窯体横断面図	20
第 11 図	狭山池 5 号窯窯体平面図・縦断面図	21
第 12 図	古代整地土層断面図	22
第 13 図	狭山池 5 号窯灰原縦断面図	24
第 14 図	狭山池 5 号窯窯体・灰原平面測量図	25
第 15 図	狭山池 5 号窯灰原堆積前の地形測量図	26
第 16 図	狭山池 5 号窯燃焼部付近の遺物出土位置	27
第 17 図	土坑 51 平断面図	28
第 18 図	土坑 76・78 平断面図	29
第 19 図	土坑 76・78 の遺物出土位置	30
第 20 図	狭山池 5 号窯焼成部・燃焼部出土遺物	33
第 21 図	狭山池 5 号窯灰原出土遺物 (1)	34
第 22 図	狭山池 5 号窯灰原出土遺物 (2)	35
第 23 図	狭山池 5 号窯灰原出土遺物 (3)	36
第 24 図	狭山池 5 号窯灰原出土遺物 (4)	37
第 25 図	狭山池 5 号窯灰原出土遺物 (5)	38
第 26 図	狭山池 5 号窯灰原トレンチ出土遺物	39
第 27 図	土坑 51 出土遺物	40
第 28 図	土坑 76 出土遺物	40
第 29 図	古代整地土層内出土遺物	40
第 30 図	土坑 78 出土遺物	41
第 31 図	狭山池 5 号窯の杯身法量	42
第 32 図	狭山池 5 号窯の杯身たちがり	42

図版目次

- 図版 1 狹山藩陣屋跡 03- 01 区全景
- 図版 2 狹山藩陣屋跡近世遺構 (1)
- 図版 3 狹山藩陣屋跡近世遺構 (2)
- 図版 4 狹山池 5 号窯 (1)
- 図版 5 狹山池 5 号窯 (2)
- 図版 6 狹山池 5 号窯 (3)
- 図版 7 狹山池 5 号窯灰原堆積前の地形
- 図版 8 土坑 76・78
- 図版 9 土坑 51、03- 01 区調査完了後全景
- 図版 10 狹山藩陣屋跡 03- 01 区近世遺物
- 図版 11 狹山池 5 号窯焼成部・燃焼部出土遺物
- 図版 12 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (1)
- 図版 13 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (2)
- 図版 14 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (3)
- 図版 15 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (4)
- 図版 16 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (5)
- 図版 17 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (6)
- 図版 18 狹山池 5 号窯灰原出土遺物 (7)
- 図版 19 土坑 51・76、古代整地土層内出土遺物
- 図版 20 土坑 78 出土遺物

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

泉北丘陵と羽曳野丘陵に挟まれた地に位置する大阪狭山市は、旧天野川の氾濫原である狭山池主谷がその市域を南北に貫いている。狭山池主谷の東西には中位段丘が、さらにその外側には高位段丘と丘陵が南北に連なるため、宅地化が進む以前は、山に挟まれた地形を示す地名「狭山」にふさわしい景観が広がっていたであろう。この狭山池主谷には多くの支谷が合流しており、その支谷のひとつに流れる三津屋川は、かつては狭山池主谷を北上する旧天野川（西除川）に合流していたが、現在ではその合流点は狭山池の中に位置する。旧天野川と三津屋川の水は狭山池の西除の洪水吐と東除の洪水吐から流れ出し、西除川と東除川になって北上している。これは、狭山池築造以後、人工的にその流路を固定したことによるものであり、狭山池築造以前は旧天野川が主谷の沖積低地をそのまま北上していた。

狭山池主谷に合流する細かな支谷の多くは、周辺の開発が進んだために現況では目視確認できるものが少ない。今回、発掘調査をおこなった狭山池東岸にも、狭山池主谷へ合流する細かな谷筋がいくつも存在していたようである。大正・昭和の改修以前の狭山池岸部の地形を記録している「狭山池法下耕地整理地区及ビ之ニ隣接スル土地現形并予定図」を参照すると、狭山池東岸部の大正時代の地形をある程度確認することができる。とくに東岸部の北半分については、粗い等高線が記されており、狭山池へと下る細かな谷筋が少なくとも2箇所は大正時代まで存在していたことがわかる。この図に記されている2箇所の谷筋のうち東除のすぐ南側にある谷筋は、以前はさやま遊園の屋内スケート場が建っていた場所の北側にあたり、1992年に実施した狭山池3号窯（S13号窯）灰原の発掘調査時には、この谷地形の池側の端部を確認している¹⁾。また、図に記されている2箇所の谷筋のうち南側の谷筋は、南東から狭山遊園跡地を北西へのびる谷筋である。2002年に実施した狭山藩陣屋跡02-01区の発掘調査時には、この南側の谷の上流端部を検出している²⁾。今次の調査区は狭山池3号窯が所在する谷の南斜面付近に位置しており、発掘調査による原地形の復原が期待された。

註記

- 1)『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 III狭山池3号窯」狭山池調査事務所、1998年
- 2)「平成14年度 狹山藩陣屋跡発掘調査報告書I」大阪狭山市文化財報告書z26、2002年

第2節 歴史的環境

大阪狭山市域における旧石器時代の資料として、寺ヶ池遺跡で採集された晚期旧石器時代の有舌尖頭器が知られている。また、東野遺跡・池之原地区・ひつ池の各所にて採集されたナイフ型石器もこの時代の遺物となりうる可能性がある¹⁾。縄文時代の資料としては、寺ヶ池遺跡・東村遺跡・大鳥池遺跡・へど池・狭山池・ひつ池・上明池・池之原地区で採集された石鏃・スクレイバーなどが知られており²⁾、当該調査区周辺域が縄文人の狩猟場であったことをうかがわせる。付近の縄文時代の集落遺跡としては富田林市に所在する錦織遺跡が著名であるが、旧天野川流域ではこの時期の集落遺跡はいまだ確認されていない。弥生時代後期になると旧天野川流域でも集落遺跡がみられるようになる。狭山池の南方約3kmの地点にある茱萸木遺跡は弥生時代後期の高地性集落である³⁾。

古墳時代以降の本市域内における人々の活動の痕跡は、近年の発掘調査成果によって、明確に認識可能なものとなっている。旧天野川流域の沖積低地に立地する池戸遺跡では、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性がある遺構とともに庄内式の甕・壺と布留式の甕が出土しており、古墳時代前期までには旧天野川流域に集落が成立していたことを示している⁴⁾。旧天野川右岸の中位段丘上に立地する狭山藩陣屋跡の下屋敷では、2002年の調査で、自然の谷地形の底部分からTK47型式の須恵器が出土した。古墳時代中期の集落が中位段丘上に存在した可能性が高い⁵⁾。

古墳時代中期以後、泉北丘陵を中心とした地域で須恵器生産が盛んに行われ、陶邑窯跡群が形成された。5世紀後葉から6世紀前葉までの本市域内における窯の造営は、陶器山丘陵およびその北方に連続する高位段丘のみに限定されるようである。発掘調査が行われた窯跡としては、TK47型式～MT15型式の須恵器を生産した陶器山252号窯(MT252・山本1号窯)⁶⁾がある。また、その南南東約800mの地点には陶器山15号窯(MT15)⁷⁾がある。増大した須恵器の需要に対応して、6世紀後半の陶邑窯跡群における生産活動はより活発なものとなる。窯体の構築場所と燃料の薪をあらたに確保するため、窯の造営は東方の中位段丘へとその分布域を拡大する。TK43型式～TK209型式の須恵器を生産するこうした中位段丘斜面に築かれた窯跡には、太満池北窯(TMNN)⁸⁾・太満池南窯(TMS)⁹⁾・狭山池2号窯(SI2)¹⁰⁾・狭山池3号窯(SI3)¹¹⁾・池尻新池南窯(ISS)¹²⁾・今熊1号窯(IK1)¹³⁾・ひつ池東窯(HTE)がある。窯の造営域が最も東方へと拡大した当該期以降の窯の造営は東除川水系の中位段丘崖より以西で行われてあり、この谷筋が陶邑窯跡群の東端となっている。7世紀に入ると本市域内における須恵器窯の数は減少するが、狭山池主谷周辺の中位段丘斜面での操業は継続し、東池戸1号窯(HI1)¹⁴⁾・狭山池4号窯(SI4)¹⁵⁾・ひつ池西窯(HTW)¹⁶⁾などが確認されている。

7世紀前葉、狭山池主谷を横断する全長約300m・全高約6mの堤を築くことによって旧天野川(西除川)と三津屋川の流れを堰き止め、ダム式のため池である狭山池が造られた。この狭山池を堰き止める堤の直下から、コウヤマキを割り抜いてつくられた樋管を連結する下層束樋が検出された。この全長約60mにも達する底樋の埋設時期は、樋管材であるコウヤマキの伐採年代が西暦616年であることが年輪年代測定法により判明したため、同年以降の非常に限定された時間幅の中に求められることとなった¹⁷⁾。狭山池築造以後、

その灌漑範囲に位置する下流地域では、美原町平尾遺跡・太井遺跡・丹上遺跡、羽曳野市郡戸遺跡・河原城遺跡など、土地開発の拠点となる遺跡が成立していった。大阪狭山市域では7世紀後葉から8世紀初頭頃、旧天野川右岸の中位段丘上に東野廃寺が建立された。

奈良時代、天平3(731)年に行基が狭山池院と尼院を建てたと『行基年譜』に記されている。これに関連する建物跡は現在までに確認されていない。が、おそらくは狭山池北東の中位段丘上、もしくは北西の中位段丘上に占地していたのではないかと想定される。なお、狭山池北堤には行基が改修したと考えられる厚さ60cmの盛土が確認されている¹⁸⁾。また、天平宝字6(762)年、狭山池の大規模な改修工事が実施されたことが『続日本紀』に記されている。発掘調査では、狭山池北堤を築造当初と比較して2倍に拡幅する大規模な盛土工事が実施されたことが判明した。また、飛鳥時代に埋設された下層東樋を池側へ約13m延長する工事もこの時に行われたようである¹⁹⁾。

平安時代、最澄が写した弘仁10(819)年の記録によれば、僧勤操が「狭山池所」にいたことがわかる。狭山池改修に関わる役所が、狭山池の近傍に設置されていたものと思われる。なお、狭山池下層東樋では、奈良時代にあらためて造られた取水部から、年輪年代測定法によって弘仁8(817)年に伐採された部材が確認されており、勤操による弘仁の改修時に、下層東樋取水部の補修が行われたと考えられている²⁰⁾。また、このデータによって、飛鳥時代に埋設された下層東樋が、補修を受けながらも200年間以上も機能し続けたことが明らかになった。

鎌倉時代、重源によって狭山池の改修が行われた。発掘調査で出土した江戸時代の中樋に使用されていた石材の中から重源狭山池改修碑が出土し、この碑文から、重源の改修が建仁2(1202)年に行われたことが確認された²¹⁾。同時に出土した石材は、古墳時代の家形石棺や横口式石槨の材を転用したもので、重源の改修時には石樋として利用していたものと推定される²²⁾。13世紀前半、狭山池北堤から約400m北方の地では、池尻遺跡が営まれており、水田跡や屋敷地などの遺構が検出されている。また、池尻遺跡の13世紀前半の遺構面では、複数回にわたると考えられる洪水によって堆積した砂層が確認されており、この時期に狭山池北堤は一度決壊したものと考えられる。南北朝の動乱期、狭山池北西に築かれた池尻城の周辺では、延元3(1338)年と正平2(1347)年に合戦が行われた。池尻城跡からは13世紀末から15世紀前半にかけての建物跡が確認されている²³⁾。室町時代、天文年間から永祿2年頃(1532年～1559年)安見美作守によって狭山池の改修が行われたが失敗した旨が、慶長13(1608)年に刻まれた西樋銘板に記されているが²⁴⁾、考古学的にはこれを裏付ける有効な資料がいまだ確認されていない。

文禄5(1596)年に発生した大地震によって狭山池北堤は大きな被害を受けたようで、その時の決壊痕跡が北堤断面調査²⁵⁾等によって確認されている。慶長13(1608)年、豊臣秀頼の家臣片桐且元によって、狭山池では慶長の改修が行われた。この時の改修は、西樋・中樋・東樋をあらたに造り、西除の造り替え・東除の新設、北堤のかさ上げを行う大規模なものであったことが発掘調査によって確認された。この時につくられた西樋・中樋は、江戸時代・明治時代・大正時代と補修を施しながら継続して使用され続けた。元和2(1616)年、北条氏信が狭山池の北東に陣屋を構え、狭山藩が開かれる。氏信は、小田原の北条氏康の子、氏規の孫にあたる。寛永14(1637)年、北条氏宗の代に狭山藩陣屋の

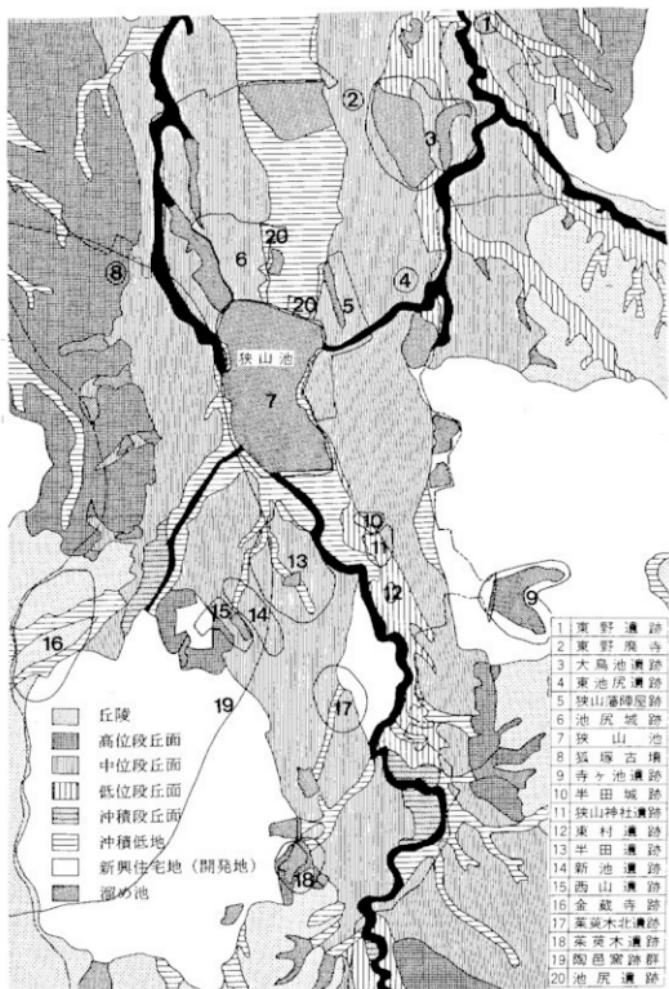
上屋敷が造営される。宝永6(1709)年、北条氏朝の代になって、現在の狭山遊園跡地を中心とした地域に、狭山藩陣屋の下屋敷が造営される。以後、明治維新に至るまでの間、狭山藩の陣屋は一貫してこの地に営まれていた。上屋敷における発掘調査では、天明2(1782)年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と、大火以後から幕末頃までの上層遺構面が確認されている。下屋敷においては、発掘調査件数が少ないが、狭山遊園跡地北側の住宅地で、当時の武家屋敷の遺構が確認される。狭山遊園跡地の南半部は、幕末以後に作成されたと推定される「狭山藩陣屋下屋敷図」²⁶⁾によると、主として馬場や芝地や畠地として利用されていたようである。

狭山遊園は昭和13(1938)年5月に南海電鉄会社によって開園された。第2次世界大戦中・戦後は、狭山池も遊園地も荒廃していたようであるが、昭和27(1952)年に大阪競艇施設会社が土地・建物を借りて、競艇を開催した。しかし、事業不振のため、昭和30(1955)年に競艇開催地は大阪市住吉区住江に移転した。昭和34(1959)年4月1日、南海観光開発会社が狭山遊園の経営を再開し、以後、南海電気鉄道株式会社が「さやま遊園」の経営を継続してきた。さやま遊園は幼児と家族を主な客層とする親しみやすい遊園地として大阪府民に広く利用されてきた。遊園地の中央にそびえ立つ観覧車も狭山池の風景に欠かせない存在として人々の目になじんでいたが、遊園地はその役割を終え、平成12(2000)年4月1日をもって閉園となった。今次の調査後、さやま遊園跡地の南半部は分譲宅地および共同住宅用地として利用される予定である。

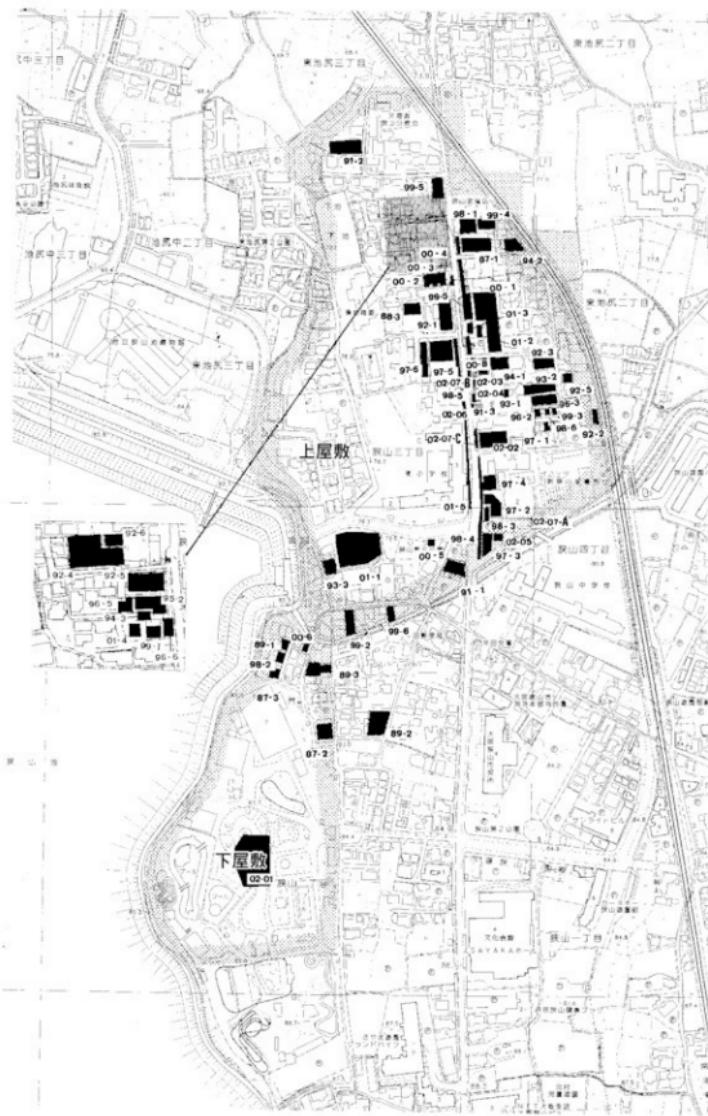
註記

- 1) a. 上野正和「狭山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狭山市文化財紀要』創刊号、1992年
b. 勝部明生「狭山の石器」『大阪狭山市史要』1988年
c. 狹山町史編纂委員会「狹山町史」第2巻、史料編、1966年
- 2) 前出註1文献
- 3) 1960年代後半に、近畿大学医学部附属病院用地造成に伴って発掘調査が行われ、現地説明会も実施されたようであるが、詳細は不明である。
- 4) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章第5節 下流遺跡の調査 I 池尻遺跡(1)」狭山池調査事務所、1998年
- 5) 「平成14年度 狹山藩陣跡発掘調査報告書I」『大阪狭山市文化財報告書』26、2002年
- 6) 梶仁孝・市川秀之「山本1号窯発掘調査概要報告書」『大阪狭山市文化財報告書』1、1988年
- 7) 田沼昭三「陶邑古窯跡群I」『平安学園考古学クラブ研究論集』10、1968年
- 8) 市川秀之・植田隆司「太満池南窯・北窯発掘調査報告書」『大阪狭山市文化財報告書』5、1991年
- 9) 前出註8文献
- 10) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 II 狹山池2号窯」狭山池調査事務所、1998年
- 11) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 III 狹山池3号窯」狭山池調査事務所、1998年
- 12) 市川秀之・植田隆司「池尻新池南窯発掘調査報告- 陶邑窯跡群の調査」『大阪狭山市文化財報告書』7、1992年
- 13) 植田隆司「陶邑窯跡群 今熊1号窯(IK1号窯)発掘調査報告」『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書4』『大阪狭山市文化財報告書』12、1994年
- 14) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 V 東池尻1号窯」狭山池調査事務所、1998年
- 15) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第4節 須恵器窯の調査 IV 狹山池4号窯」狭山池調査事務所、1998年
- 16) 植田隆司「ひつ池西窯 陶邑窯跡群の調査」『大阪狭山市文化財報告書』10、1993年
- 17) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 棚の調査 IIII 東横下層遺構」狭山池調査事務所、1998年
- 18) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第1節 北堤堤体の調査 I 北堤断面」狭山池調査事務所、1998年
- 19) 前出註16-17文献

- 20) a.光谷拓実「狭山池出土木樁の年輪年代」『狭山池』埋蔵文化財編、第3章 第3節、狭山池調査事務所、1998年
b.小山田宏一・中山潔・有井宏子・白江人智・植田隆司『大阪府立狭山池博物館常設展示案内』大阪府立狭山池博物館図録1、2001年
- 21) 『狭山池』埋蔵文化財編、「第2章 第2節 権の調査 I 中権遺構」狭山池調査事務所、1998年
- 22) 市川秀之「狭山池出土の樁の復元と系譜」『狭山池』埋蔵文化財編、第3章 第5節、狭山池調査事務所、1998年
- 23) 小林義孝『池尻城跡発掘調査概要』、大阪府教育委員会、1987年
- 24) 前出註19b文献
- 25) 前出註17文献
- 26) 都築忠夫氏所蔵。下記書籍等に収録。
『大阪狭山市史叢書 紹図に描かれた狭山池』大阪狭山市教育委員会、1992年



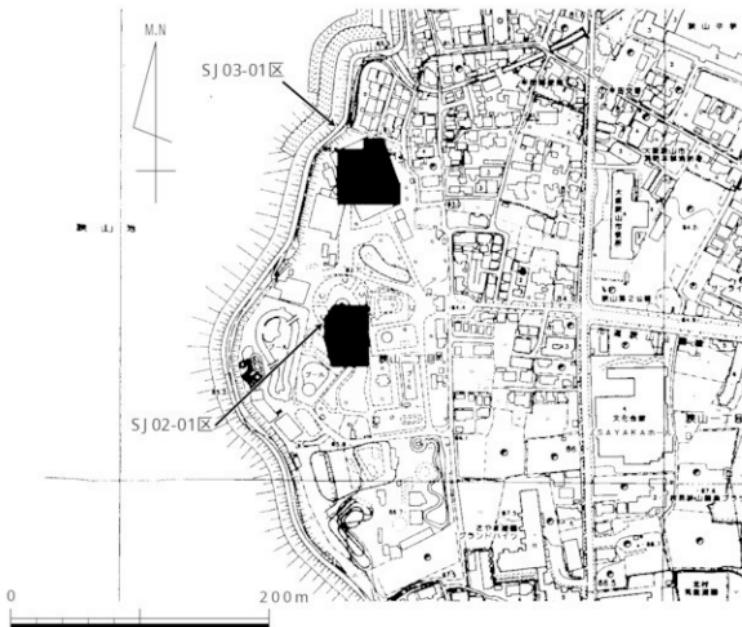
第1図 大阪狭山市内の遺跡分布と地形分類



第2図 狹山藩陣屋跡における既存の調査箇所（縮尺：1/5,000）

第2章 調査にいたる経過

本調査区が所在する狭山池東岸部分には、かつて、さやま遊園の屋内スケートリンクが建っていた。この北西側では、狭山池調査事務所による1990年～1992年の発掘調査で、狭山池3号窯の灰原が検出されている。このTK43型式の須恵器を包含する灰原は、狭山池主谷へ合流する開析谷の北斜面裾に形成されていた。また、当該地には、江戸時代に狭山藩の下屋敷が置かれていたため、埋蔵文化財包蔵地図で「狭山藩陣屋跡」として周知されている。さやま遊園が平成12（2000）年4月に閉園し、この跡地を住宅地として再開発するため、南海電気鉄道株式会社から平成13（2001）年12月12日付で発掘届が提出された。事前発掘調査の結果、北端用地ではほぼ全域において本発掘調査が必要と判断した。北端用地の開発計画が再度取りまとめられ、南海電気鉄道株式会社から平成15（2003）年6月10日付で発掘届が提出され、本市と同社との間で土木工事に伴う発掘調査の契約を締結し、平成15（2003）年7月2日から同年10月31までの期間で発掘調査を実施した。なお、調査中に新規発見した須恵器窯である狭山池5号窯については発見届を提出し、周知の埋蔵文化財包蔵地として埋蔵文化財分布図へ記載することとした。また、灰原の主要部分が調査区北側へ続くことが判明したため、拡張調査区を設定して最終的に約2,300m²を調査対象とした。



第3図 調査区位置図

第3章 狹山藩陣屋跡03 01区

第1節 遺構と層序

調査区付近の現地表面は標高 85.00m 前後であったが、この地表面より 0.4m ~ 2.0m 下の標高 83.00m 付近までは、ガラが混じる現代の整地層であった。南北 43.0m・東西 50.5m の調査区のうち、ほぼ全域でさやま遊園造成時に掘り込まれた暗渠が縦横に走っていた。また、東側の約 360m² は地山面直上まで掘り込まれて搅乱を受けていた。これはさやま遊園の「菖蒲池」として使われていた痕跡であろう。「菖蒲池」は昭和 30 年代から昭和 40 年代に水を湛え、来園者を楽しませていたようである。この掘り込みの底には、掘り込みの端に沿って、「菖蒲池」の護岸を果たしていた杭列が確認できた。また、掘り込みの内側の底付近では、当時の飲料水のビンや缶が散見できた。

調査区全体を覆う近現代の整地層を掘削すると、搅乱と搅乱の間に近世遺構面が断続的に遺存していた。ただし、調査区北寄りの遺構上面は近現代の開発によって 10cm ~ 数 10cm ほど削平を受けているようで、遺構面が他の箇所よりも若干低くなっている。こうした近現代の破壊を免れて残存した遺構は、とくに調査区の北側中央・北東端・南東端・南側中央で集中する傾向が認められる。

調査区の北側中央付近では、径 0.5m 前後・深さ 10cm ~ 20cm のピット、径 1.5m 前後・深さ 10cm ~ 20cm の土坑が切り合いながら数多く密集している。この遺構集中域は東西約 15m・南北 12.5m (現存長) を測り、その西端を南北に並ぶピット群が、その南端を東西方向にのびる溝 34 が画しているようにみられる。遺構集中域の東端には土坑 20・21・31・32 などの長径 2m 以上・深さ 30cm ~ 50cm 程度の大きめの土坑が切り合いながらかたまって検出された。おそらく、西側に柵などを配置し、南側に雨水溝を設け、東側を庭として中央に建物を配置した屋敷地であろう。

調査区北東端では、上層からの搅乱が激しく、遺構の遺存状態が良好ではなかったが、土坑 1・溝 1・溝 2・溝 3 などの比較的大きめの遺構が確認された。これらの遺構埋土あるいは、上層の搅乱土中からは遺物が多く出土した。この箇所では、屋敷地を区画する溝などの遺構は確認できなかったが、おそらくは調査区の東側を中心とした屋敷地の一部であろう。また、溝 2 の西側では、遺構面の一部で赤変箇所がみられた。この箇所に試掘溝を設けて確認した結果、須恵器窯の窯体が削平を受けて近世遺構面に露頭したものであることが判明した。この須恵器窯、狭山池 5 号窯については第 4 章で後述する。

調査区の南東端は「菖蒲池」の掘り込みによって、遺構の破壊が著しいが、屋敷地とおぼしき遺構の残存が確認できた。土坑 12 は埋甕である。この埋甕の周囲には溝が数条穿たれている。台所の排水処理あるいは、雨水の集水機能があったのかもしれない。調査区南側中央では、幅 2.5m ~ 3.9m・深さ約 30cm・長さ 10.5m 以上を測る溝 38 を検出した。溝の埋土は灰色のシルトで、遺物等の包含は認められない。

当該調査区は、狭山池主谷へ合流する開析谷の南斜面に位置しているが、これらの遺構は第 5 図に断面を示した整地土層の上に形成されており、大がかりな造成工事を実施して谷の斜面を埋め立て、広い平坦面を造り出して、その上に遺構が展開していることがわか

る。各遺構の埋土、遺構面の直上層から出土した遺物から、これらの遺構は18世紀以後に形成されたものと推定される。この遺構面のベース層である整地土層の施工時期を特定することは難しいが、宝永6(1709)年の狭山藩陣屋跡下屋敷造営時、あるいは天明2(1782)年の陣屋火災後に施工された可能性が高い。第4図に示した平面図では調査区北側の1~8の範囲がこの時期の整地土層である。a~eは第4章に記した狭山池5号窯およびその関連遺構の形成前後、すなわち7世紀初頭から前葉頃の整地土層と考えられる。

ところで、明治初期に作成された「狭山藩陣屋下屋敷図」をみると、幕末の陣屋の土地利用状況が概ね推察できる。本調査区の北端中央から中央へかけての範囲と、調査区東側が下級藩士の屋敷地として利用されていた可能性は極めて高い。また、調査区南端で検出した溝38は馬場の北端付近を区画する溝であった可能性もある。ただし、下屋敷の御殿が位置していたはずの、調査区北西端においては関連する遺構がまったく確認できなかつた。

第2節 出土遺物（第6図~第8図、図版10、第1表）

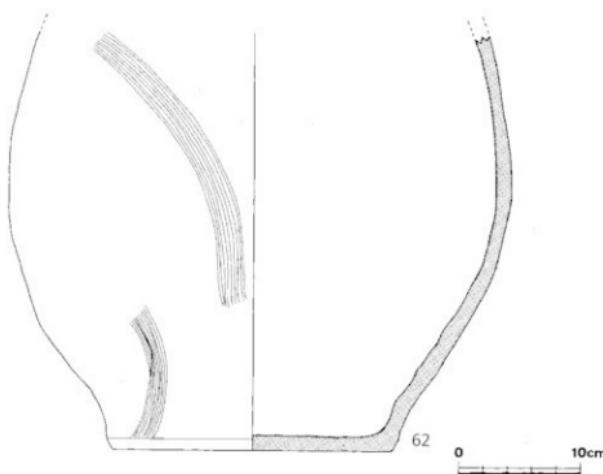
出土した近世・近代の遺物は膨大な数に及ぶが特色のあるもののみを図化した。このうち、整地層に含まれるものはおおむね19世紀以降のものでその多くは近代以降の遺物である。明治維新後、狭山藩陣屋が廃されて、一部が住宅地化した時期の遺物であろう。また東北隅遺物集中土層のものは、ややそれに先行する時期が中心である。溝1などの遺構出土の遺物は18世紀代のものが中心である。器種は生活雑器を中心で、下屋敷の北・東側に居住していた比較的下級の藩士の生活を示す遺物と思われる。17世紀に遡る遺物が全く見られないのは、狭山藩陣屋上屋敷における状況とは異なっている。また包含層の遺物の中には須恵器も何点か含まれているが、これは造成などに伴って窯の遺物が混入したものであろう。

第1表 狹山藩陣屋跡03-01区出土遺物観察表

箇番 記号	層位・遺構	法量(cm)	産地・器種・年代	紋様・施釉
6-1	北東隅遺物集 中土層	口径 13.2 器高 2.6	肥前系磁器・小皿・19世紀	(内面 花弁区画内に梅花紋、朝唐草 (外面 口縁部に円窓、施釉)透明釉
6-2	整地層	口径 9.6 器高 2.1	瀬戸美濃系陶器・蓋	(上面 染付で波紋 (施釉)上部灰色釉・下部露胎
6-3	整地層	口径 2.5 腹径 4.7 器高 3.1	瀬戸美濃系陶器・ ミニチュア急須	(施釉)外面は明緑色釉・内面無釉
6-4	整地層	口径 15.2 器高 7.0 高台径 6.0	肥前系磁器・中鉢・19世紀	(内面 底部外縁に重円窓(施釉)青磁釉
6-5	整地層 10-5	口径 6.2 残存高 4.7	土師質・台付灯明皿	
6-6	整地層	口径 4.8 器高 1.2	瀬戸美濃系陶器・ 7の小形壺の蓋	(施釉)上部に緑釉・下部は露胎
6-7	整地層	口径 4.6 器高 4.8	瀬戸美濃系陶器・小形壺	(施釉)緑釉
6-8	整地層	口径 5.6 器高 3.4 高台径 2.0	肥前系磁器・小碗・19世紀	(外面 凹曲高砂(施釉)白磁釉
6-9	整地層	口径 8.0 器高 3.3 高台径 3.2	肥前系磁器・小杯・19世紀	(施釉)乳白色釉
6-10	整地層	口径 6.8 器高 4.3 高台径 3.4	肥前系磁器・小碗・19世紀	(外面 茶・緑色で草花紋(施釉)透明釉
6-11	整地層	口径 7.0 器高 4.5 高台径 3.2	肥前系磁器・酒盃・19世紀	(外面 梅花紋(施釉)透明釉
6-12	整地層	口径 6.0 器高 4.1 高台径 3.0	13と同種・肥前系磁器・ 小碗・19世紀	(外面 印判刷で蔓内菊花紋、周囲青海波・菊花紋 (施釉)透明釉・高台底妙付着
6-13	整地層	口径 6.0 器高 4.1 高台径 3.1	12と同種・肥前系磁器・ 小碗・19世紀	(外面 印判刷で蔓内菊花紋、周囲青海波・菊花紋 (施釉)透明釉・高台底妙付着
6-14	整地層	口径 11.8 器高 5.0 高台径 4.2	肥前系磁器・中碗・19世紀	(外面 鶴紋(施釉)透明釉
6-15	整地層	口径 6.4 器高 7.4 高台径 4.8	肥前系磁器・中碗・19世紀	(外面 上部は唐草紋・鳥紋、下部は8区画に 蔓紋・桔子紋・波紋など(施釉)透明釉
6-16	整地層	口径 6.3 器高 6.6 高台径 4.0	肥前系磁器・中碗・19世紀	(外面 蔓花紋・蝶紋(施釉)透明釉
6-17	整地層	口径 9.5 器高 3.1	肥前系陶器・段重・19世紀	(外面 染付でたすき紋・縁で藤花紋 (施釉)透明釉
6-18	整地層	口径 10.8 器高 3.7 底径 9.4	肥前系磁器・ 段重(高台脇重ね)	(外面 三重菱紋・鶴紋・雲紋 (施釉)透明釉・底部外縁部無釉
6-19	整地層	口径 10.6 器高 1.9 高台径 6.0	肥前系磁器・小皿・19世紀	(内面 斜面・お多福・鶴など、口縁部に円窓 (施釉)乳白色釉
6-20	整地層	口径 7.7 器高 3.1	產地不明磁器・片口小鉢・ 近代	(内面 華辺にプリントのトレードマーク (施釉)透明釉
6-21	整地層	口径 1.6 腹部径 4.7 器高 5.0	產地不明・ガラス瓶・近代	(外面 底部にMマーク
6-22	北東隅遺物集 中土層	口径 3.4 腹部径 13.0 器高 22.7	肥前系磁器・瓶・近代	(外面 菊紋(施釉)乳白色
6-23	整地層	口径 13.2 器高 3.0 高台径 8.2	土師質小碗	(内面 印判刷で鶴紋(外面)下部に円窓・唐草紋
6-24	北東隅遺物集 中土層	口径 6.4 残存高 3.4	產地不明陶器	(施釉)内面透明釉
6-25	北東隅遺物集 中土層	口径 12.3 器高 2.5	肥前系磁器・小碗・ 18世紀後半	(施釉)内面透明釉
6-26	北東隅遺物集 中土層	口径 6.6 器高 3.4 高台径 2.4	肥前系土器・小碗・18世紀	(内面 底部に草花紋、底部外周に円窓、口縁部に円窓 (外面 蔓花紋(施釉)透明釉

圖面 図版	層位・遺構	法量(cm)	产地・器種・年代	紋様・施釉
6-27	北東隅遺物 集中土層	口径 6.4 器高 3.3 高台径 2.5	備前系土器・小鉢・18世紀	(外)染付上部に竹葉紋 施釉 銀青灰色釉
6-28	北東隅遺物 集中土層	口径 6.8 器高 4.5 高台径 2.8	備前系陶器・小杯	(外)底部に「備前燒黄麻堂」の銘
6-29	土坑 6	口径 15.0 器高 6.8 高台径 7.7	肥前系磁器・中鉢・19世紀	(外)草花紋(内)尾込に草花紋で円錐・ 口縁部を区画し草花紋・鱗紋 施釉 透明釉
7-30	北東隅遺物 集中土層	長 4.8 火皿径 1.0	銅製品・キセル雁首	
7-31	北東隅遺物 集中土層	残存長 4.2 厚 0.1	銅製品・小柄	
7-32	北東隅遺物 集中土層	口径 5.6 器高 1.7 高台径 2.2	肥前系磁器・紅猪口・ 18世紀	(外)花紋 施釉 銀白色釉
7-33	北東隅遺物 集中土層	口径 6.8 器高 6.0 底径 4.2	肥前系磁器・仏飯器・ 18世紀	(外)唐草紋(施釉)透明釉
7-34	北東隅遺物 集中土層	径 2.4	錢・寛永通宝	
7-35	須恵器窯跡 直上	口径 16.0 器高 5.9 底径 8.6	備前系土器・蓋付鉢	(施釉)銀釉・底部露胎
7-36	北東隅遺物 集中土層	口径 12.8 器高 3.6 高台径 7.3	肥前系磁器・中皿・18世紀	(内)尾込にコニヤ印判五分花・草花紋(外)唐 草紋・底部に文字文様 施釉 銀青灰色釉・高台底砂 付看
7-37	北東隅遺物 集中土層	口径 14.0 器高 2.8 高台径 8.4	肥前系磁器・小皿・19世紀	(内)印判刷で見込に草花紋・8区画内たすき紋・波紋 (外)印判刷で唐草紋(施釉)透明釉
7-38	赤色土直上	口径 7.8 器高 4.5 高台径 3.0	肥前系磁器・小碗・19世紀	(外)彩紋・底部・口縁に5本の円錐(施釉)透明釉
7-39	上層遺構面 直上	口径 6.4 器高 1.0	土師質・灯明皿	
7-40	上層遺構面 直上	径 4.7	鉄製品・環	
7-41	上層遺構面 直上	径 2.3	錢・寛永通宝	
7-42	上層遺構面 直上	長 7.7 吸口径 0.7	銅製品・キセル吸口	
7-43	土坑 73 10-43	口径 13.3 器高 4.9	土器・火消壺	
7-44	溝 47	残存長 9.5	土器・行平鍋取手	(上)鶴・亀文様を象嵌
7-45	北側トレンチ中	残存長 7.5	瀬戸美濃系陶器・おろし	(施釉)透明釉
7-46	東北隅遺物 10-46 集中土層	底径 5.2 器高 1.5	土師質・蓋	
7-47	灰原直上 トレンチ	口径 11.0 器高 2.0 底径 4.0	陶器・灯明皿	(施釉)透明釉
7-48	溝 10	口径 5.9 器高 3.4 底径 3.3	土師質・ひょうそく	(施釉)外面茶色釉
7-49	溝 11	径 2.4	錢・寛永通宝	
7-50	土坑 74 10-50	口径 14.4 器高 9.2 高台径 8.0	肥前系磁器・中碗	(外)草紋(施釉)透明釉・外面貫入
7-51	溝 1	口径 9.0 器高 2.4 高台径 3.6	肥前系磁器・小皿・18世紀	(内)草紋(施釉)透明釉・蛇の目ハギ
7-52	溝 1	口径 17.2 器高 7.8 高台径 6.4	瀬戸美濃系陶器・こね鉢・ 18世紀	(施釉)銀釉

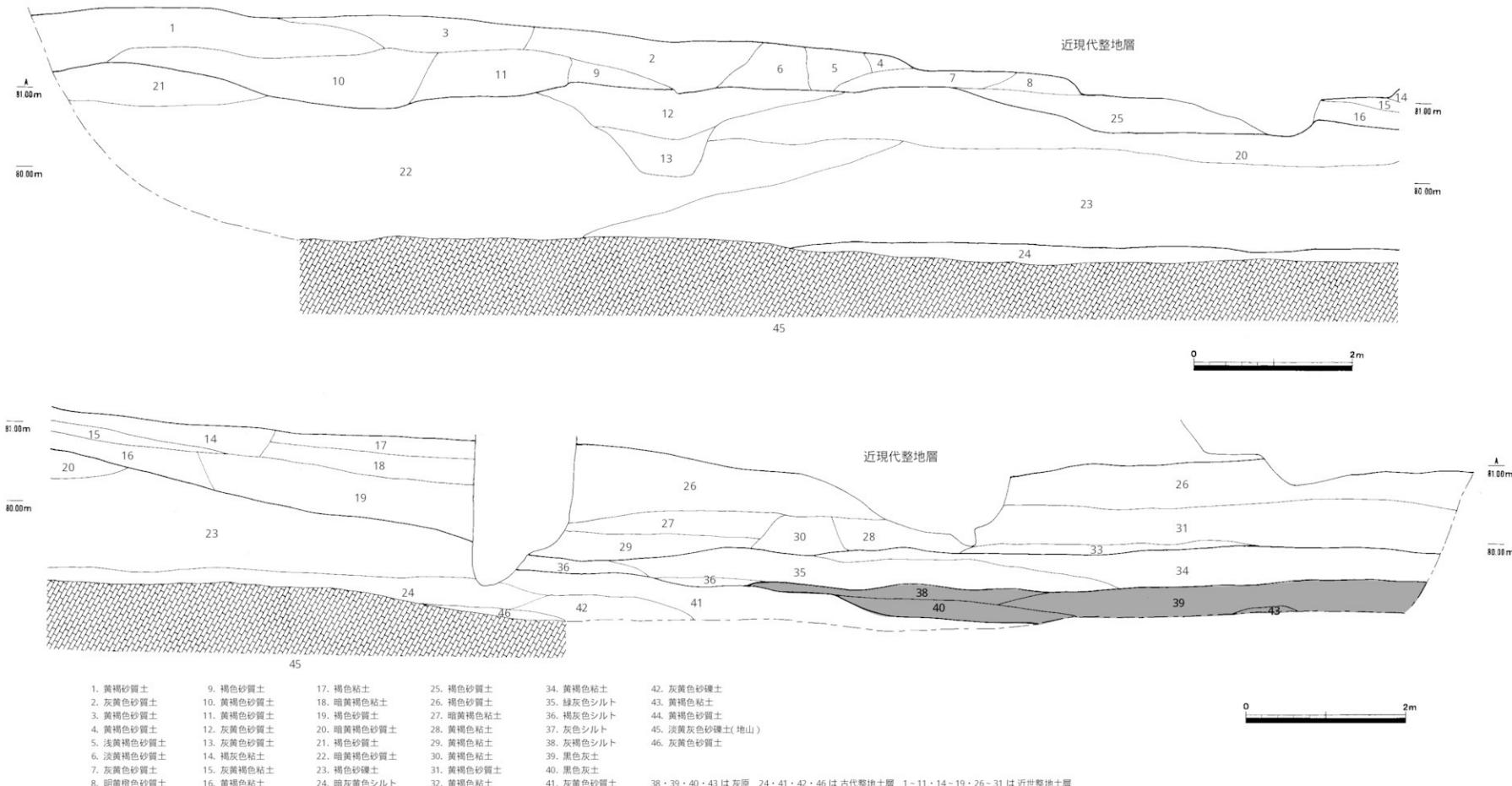
箇番 記号	層位・遺構	法量(cm)	产地・器種・年代	紋様・施釉
7-53	溝1	口径 21.4 残存高 6.6	瀬戸美濃系陶器・行平鍋・ 18世紀	(施釉)透明釉
7-54	溝1	口径 10.4 器高 5.8 高台径 4.0	肥前系陶器・中碗	(内面 淵込に文字文様・周囲に竹筒紋(外面) 竹紋(施釉)透明釉
7-55	不明	径 4.0 厚 1.7	瓦再利用・面子	
7-56	溝1	口径 21.2 残存高 6.0	瀬戸美濃系陶器・行平鍋・ 18世紀	(施釉)透明釉
7-57	溝1	残存長 8.2	軒平瓦	
7-58	整地層	口径 12.9 器高 3.9	須恵器・杯蓋	
7-59	土坑 78	口径 12.7 器高 3.6	須恵器・杯蓋	
7-60	土坑 21	脚底径 6.6 残存高 3.6 脚高 2.5	須恵器・高杯	
7-61	整地層	脚底径 7.8 残存高 4.3 脚高 3.3	須恵器・高杯	
10-61				
8-62	土壤 12	残存高 34.0 底径 23.0	湧焼甕	(内面 繩目



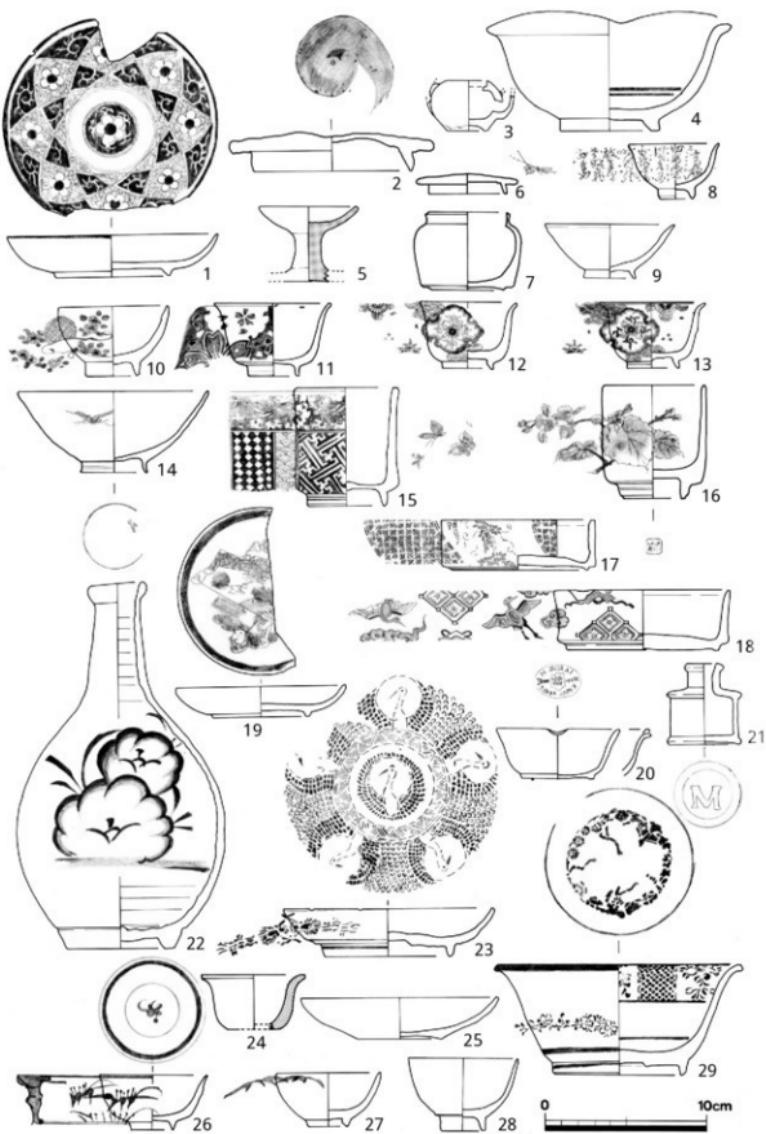
第8図 狹山藩陣屋跡 03-01区 出土遺物 (3)



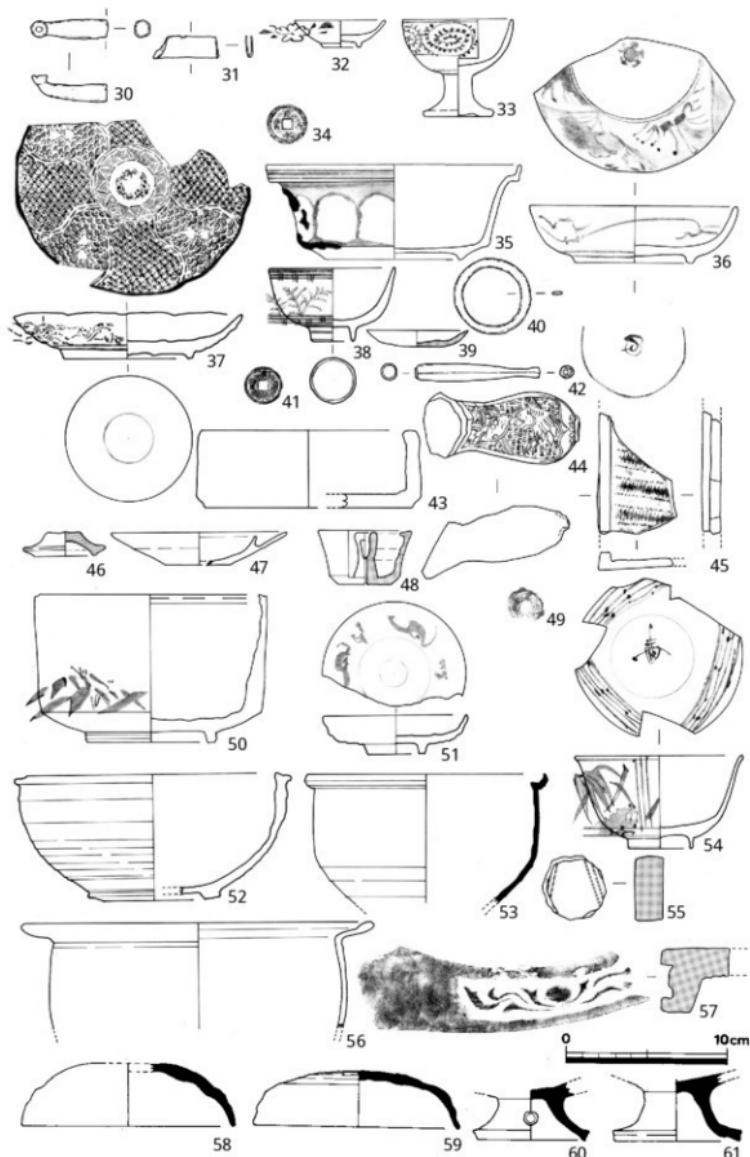
第4図 狹山藩陣屋跡 03-01区 近世遺構平面図



第5図 狹山藩陣屋跡 03-01区 調査区北端土層断面図



第6図 狹山藩陣屋跡 03-01区 出土遺物 (1)



第7図 狹山藩陣屋跡 03-01区 出土遺物 (2)



第9図 狹山藩陣屋跡03-01区・狭山池5号窯 平面図

第4章 狹山池5号窯

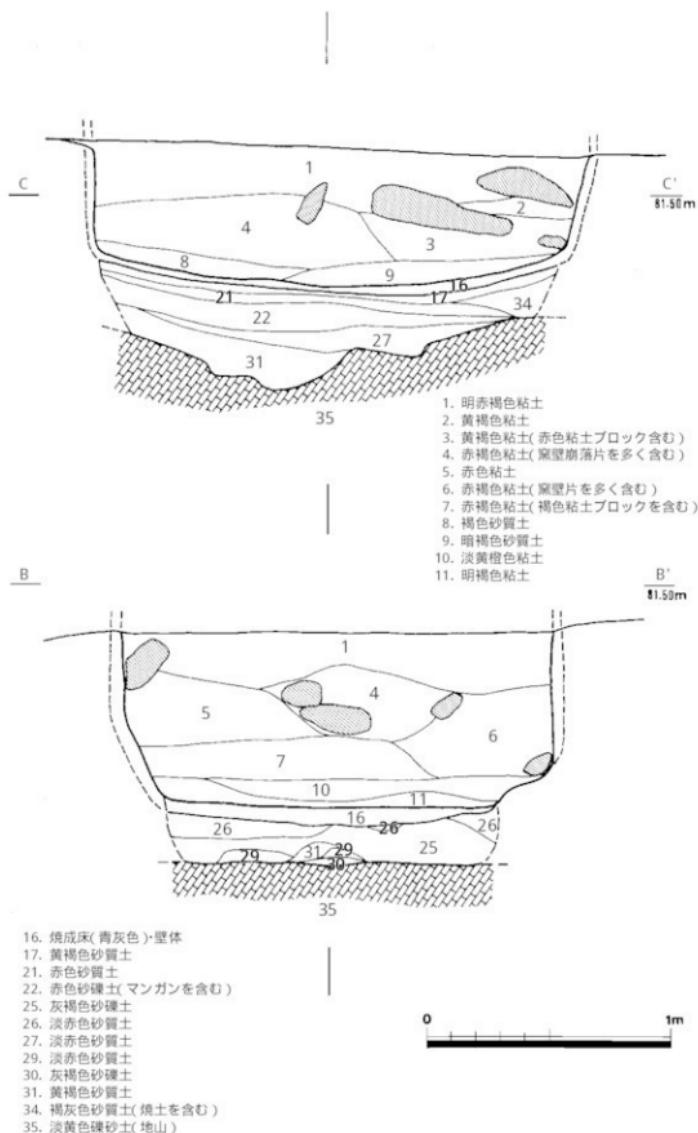
第1節 窯体

狹山池東岸で南東から北西へとのびる支谷は、狹山池が築かれた主谷へと合流する。この支谷の南斜面を厚さ最大 1.5m の砂礫土で埋め立て、この盛土を掘り込んで狹山池 5 号窯は築かれていた。窯体は、全長 6.0m、焼成部幅が最大で 2.0m を測る（第 11 図）。天井および煙道は後世に削平を受けて欠損しているが、平面形は焚口から奥壁部分まで完全に遺存している。窯体の平面形は焼成部中央付近でやや胴張りで最大幅を測り、燃焼部幅が 1.75m 前後とやや狭くなり、焚口幅が最も狭い箇所で 1.48m を測る。側壁は焼成部中央付近で最も良好に遺存し、残存高 0.67m を測る。壁体は崩落した箇所が多いが、焼成部・燃焼部で一部遺存していた。

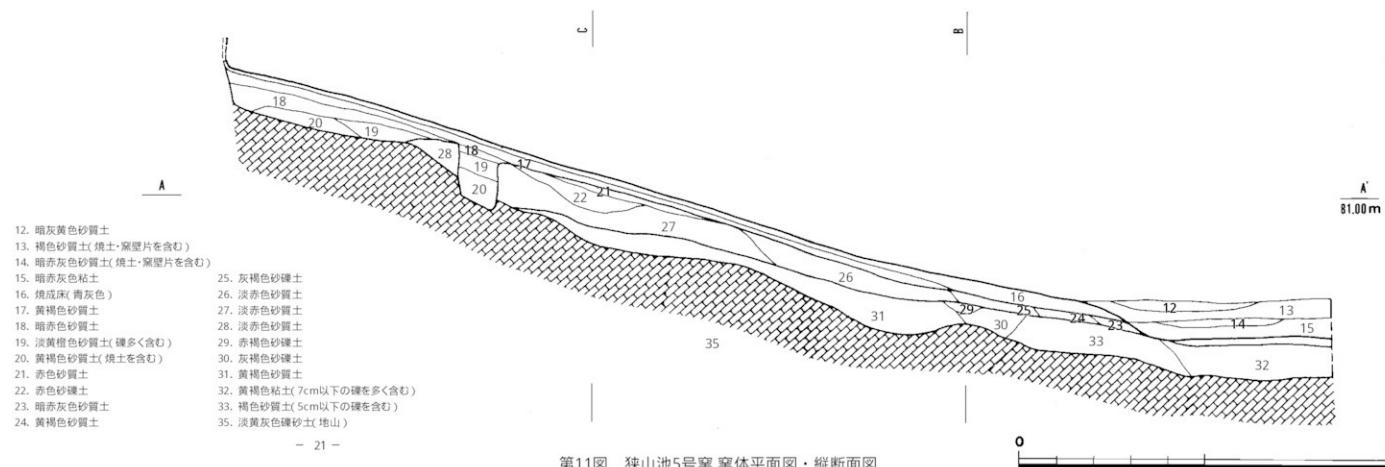
焼成床の傾斜角は約 17 度。床面の傾斜変換点は明瞭ではないが、窯体中軸で奥壁から 4.28m 以上の箇所に焼成時に掻き出した炭灰の堆積層が存在するため、奥壁から 4.28m までを焼成部、その地点から焚口側を燃焼部と考えておきたい。

焼成床は 1 枚のみで、その厚みは 5cm ~ 8cm を測る。補修痕等は確認できなかった。ただし、焼成床の 5cm 下層には、この窯体とは別の遺構面が存在し、径 20cm・深さ 25cm のビットを 2 箇所で検出した。調査完了後に窯体は埋め戻しを実施して、宅地開発の際も破壊せずに現状のまま保存することが決定したため、焼成床の全面を剥いで下層遺構の調査することはあえて避けた。よって、このビットが本窯の構築時に用いられた杭・柱等の仮設材の痕跡か、本窯に先行する窯体等の遺構があり、それに伴うものであるのかを断定することはできない。また、この遺構面のベース層は窯の焼成に伴って酸化赤変した黄褐色系の砂質土・砂礫土で、地山面はこれの下層、遺構面より 20cm ~ 30cm 下に位置する。後述する 7 世紀以前の谷斜面埋め立て工事に伴う整地層の上に、またはこの整地層を穿って、本窯の造営に先行する遺構が形成され、窯体が構築されたのは確実である。

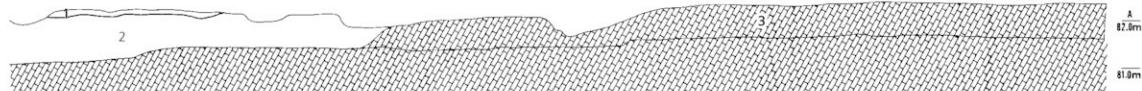
つぎに遺物の出土状況について述べる。焼成床面上で焼成状態のまま遺された遺物はない。中央付近から奥壁付近にかけての焼成床面には、わずかに甕等の破片が残存するのみである。窯体内の須恵器のほとんどは、燃焼部に近い焼成床面上と、燃焼部から焚口にかけての炭灰堆積土中から出土した（第 16 図）。燃焼部に近い焼成床面上の須恵器についても、同一個体の破片が分離して検出されていることから、焼成時の原位置を保って出土したのではなく、窯出しの際に掻き出された須恵器が燃焼部から焼成部にかけて遺棄されたものであると理解されよう。焼成部・燃焼部から出土した須恵器は、後述するように TK 217 型式 SI1 併行期に生産されたものと考えて良い資料である。



第10図 狹山池5号窯 窯体横断面図

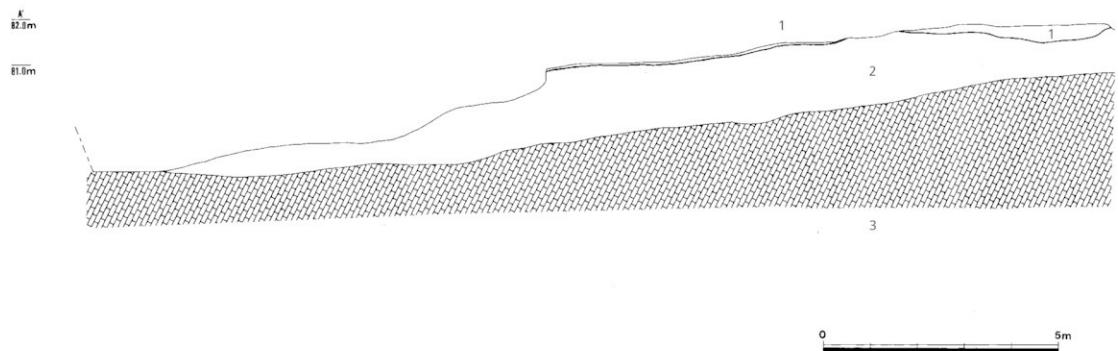


第11図 狹山池5号窯 窯体平面図・縦断面図



3

1. 淡灰褐色砂質土
2. 淡灰黄色砂壤・硬砂土(軟質)
3. 灰黄色シルト・灰黄色硬砂土(堆山)



第12図 古代整地土層断面図

第2節 古代整地土層

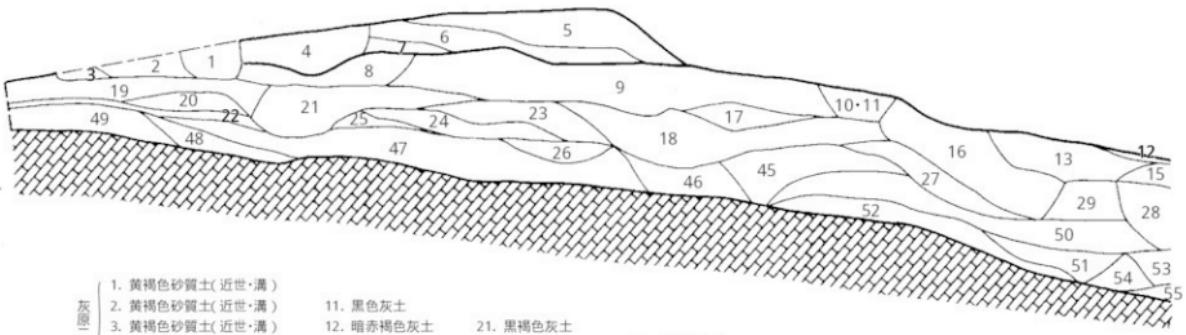
狹山池5号窯の窯体および灰原の下層には、砂質土・砂礫土からなる整地土層が存在した。第12図に示した土層図は、5号窯の西側で03-01調査区全体を対象として南北方向に観察を行った整地土層断面図である。地山は調査区南端で標高82.3m、調査区北端で標高78.8mを計測し、3.5mの比高差で北へ向かって緩やかに傾斜している。この斜面の肩部を埋め立てて、平坦面を谷内側へと約30m拡大するように、淡灰黄色砂礫土を主体とした盛土が、調査区南端北へ約15mの地点から、拡張調査区北端南へ約2mの地点まで施されている。第12図を作成した箇所における整地土の厚みは、窯体構築箇所の西側で最大1.6m、灰原散布域の西側で0.1m～1.1mを測ることができる。ただし、窯体の直下における整地土の厚みは0.3m程度の厚みしかなく（第11図）。灰原の直下では整地土が存在しない（第13図）。おそらく、ここから谷の上流側（東南東～南南東方向）へ向かって、整地土の広がりは急激に収束していくのであろう。近世遺構面調査時にも露頭していたこの整地土は上面から観察すると、a～dの短冊状の単位に分割することができる。狹山池5号窯はこのaの整地土に築かれている。

整地土層中から出土した遺物は少なく、わずかに第29図の須恵器杯身1点のみである。この杯身は陶邑田辺編年のTK217型式の古段階（狹山池1号窯併行期、以後はSI1併行期と記述）、飛鳥編年の飛鳥Iに含まれるものである。よって、古代整地層は、狹山池5号窯およびその先行遺構が構築された時期以前に盛土工事が開始され、狹山池5号窯が操業を停止した時期と同一の7世紀前葉頃までの期間に工事が完了したと考えて良いであろう。

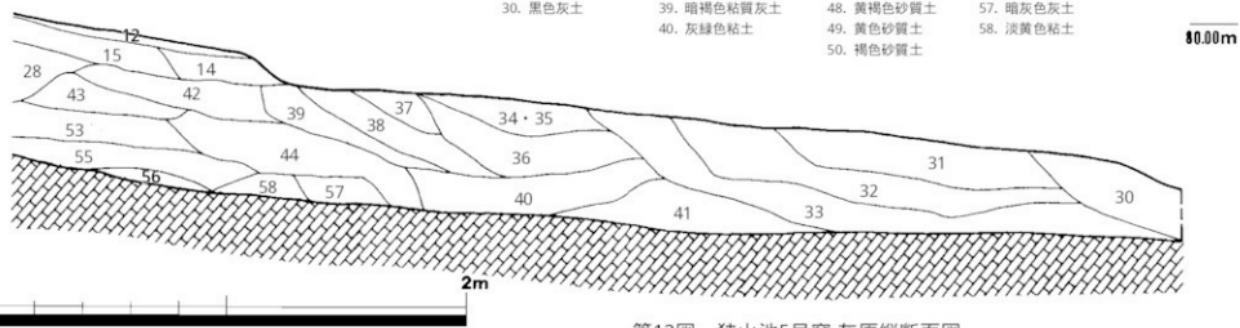
第3節 灰原

北に開口する狹山池5号窯の焚口の前面には、黒色の灰土が溜まった灰原が形成されていた。焚口前面部におけるベース面の標高は80.6m、拡張調査区北端におけるベース面の標高は79.0mを測り、北に向けて傾斜している（第15図）。この傾斜面上において最大58cmの厚みで、南北10.5m以上・東西11.0m以上の範囲に灰原は広がっていた（第13図・第14図）。調査区の北側および東側にも灰原は薄く広がっているようである。窯体中軸の延長線上で土層断面図を作成したが、この箇所では灰原の直下で地山面を検出した。灰原西端部分でのベース層は古代整地層であった。また、焚口の東側および北東側では、灰褐色砂質土および灰土からなる灰原2次堆積層を確認した。包含する須恵器はいずれも細かく碎かれた小片であった。近世遺物を包含していることから、狹山藩陣屋跡造成以後の搅乱に伴って形成されたものと考えられる。

灰原に包含される須恵器の量は、窯体中軸延長線に沿った場所と、拡張調査区北端付近の灰原裾が多く、他の箇所では比較的少ない。拡張調査区北側の掘り残し部分およびその北側の住宅付近に当たる谷斜面裾においても、灰原中の遺物量は比較的多いものと思われる。今回の開発工事では破壊されないものの、将来における開発によって影響を受ける場合は、必ず発掘調査が必要である。



- | | | | | |
|------------------|------------|------------|-------------|------------|
| 1. 黄褐色砂質土(近世・溝) | 11. 黒色灰土 | 21. 黑褐色灰土 | 31. 黑褐色灰土 | 41. 灰綠色粘土 |
| 2. 黄褐色砂質土(近世・溝) | 12. 暗赤褐色灰土 | 22. 黑褐色灰土 | 32. 黑褐色粘質灰土 | 42. 赤色砂質土 |
| 3. 黄褐色砂質土(近世・溝) | 13. 灰青色粘土 | 23. 黑褐色砂質土 | 33. 黑色粘質灰土 | 43. 赤褐色砂質土 |
| 4. 黑色砂質土(燒土含む) | 14. 黑褐色灰土 | 24. 赤褐色砂質土 | 34. 褐色砂質土 | 44. 灰綠色粘土 |
| 5. 灰黄褐色砂質土(燒土含む) | 15. 赤褐色灰土 | 25. 黑褐色粘土 | 35. 黑褐色砂質土 | 45. 黑色灰土 |
| 6. 暗褐色砂質土(燒土含む) | 16. 暗褐色灰土 | 26. 黑褐色砂質土 | 36. 黑色灰土 | 54. 暗灰色灰土 |
| 7. 黄褐色砂質土 | 17. 黑褐色灰土 | 27. 赤褐色砂質土 | 37. 黄灰色粘土 | 46. 赤色粘土 |
| 8. 暗褐色灰土 | 18. 黑褐色粘土 | 28. 赤褐色砂質土 | 38. 明黃褐色砂質土 | 47. 黄褐色砂質土 |
| 9. 黑色灰土 | 19. 黑色灰土 | 29. 褐色砂質土 | 39. 暗褐色粘質灰土 | 48. 黄褐色砂質土 |
| 10. 暗灰色灰土 | 20. 黄褐色砂質土 | 30. 黑色灰土 | 40. 灰綠色粘土 | 49. 黄色砂質土 |



第13図 狹山池5号窯 灰原縦断面図



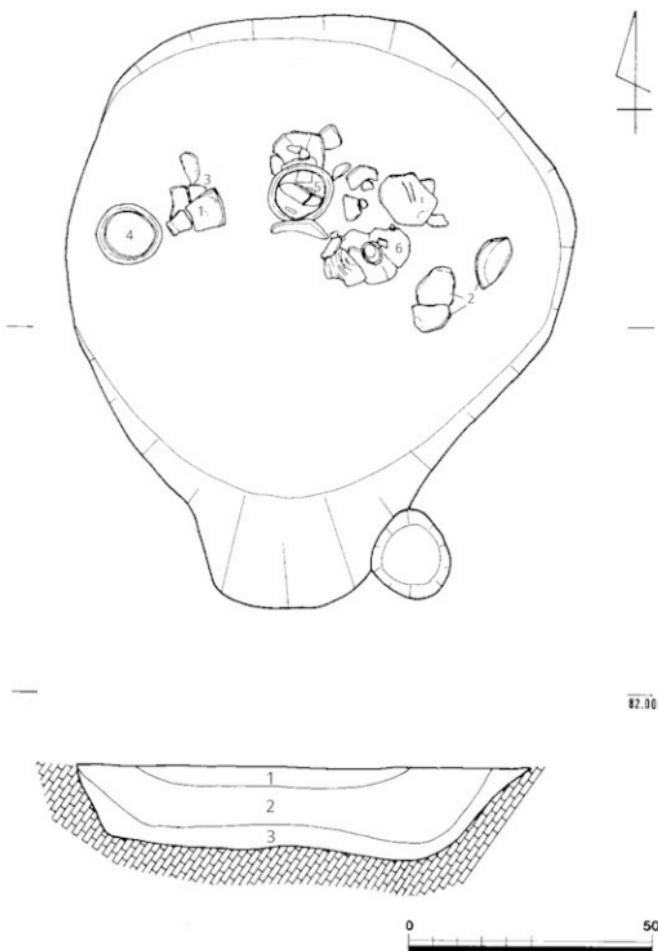




第16図 狹山池5号窯 燃焼部付近の遺物出土位置
(番号は遺物図に対応)

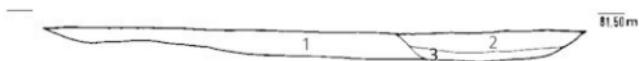
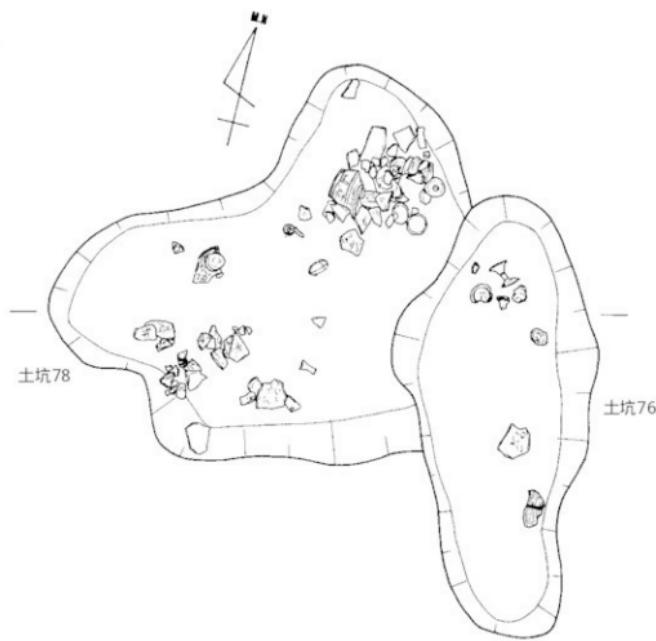
灰原からは蓋杯・高杯・短頸壺・提瓶・平瓶・甌・甕・甕蓋などが出土した。灰原から出土した須恵器は、後述するように、MT 85型式～TK 43型式の杯身1点を含むが、その他はすべてTK 209型式期とTK 217型式SI1併行期に生産されたものであろう。

灰原の灰土を完全に掘削し、自然地形を確認する過程で、径5cm程度の杭痕を斜面中腹で2箇所検出した。杭痕の埋土は、すべて灰原の灰土であった。



1. 黄褐色砂質土
2. 暗黄褐色粘土(マンガン含む)
3. 明黄褐色粘土

第17図 土坑51 平断面図



- 1. 黄褐色砂質土
- 2. 褐色砂質土
- 3. 黄褐色粘土



第18図 土坑76・78 平断面図

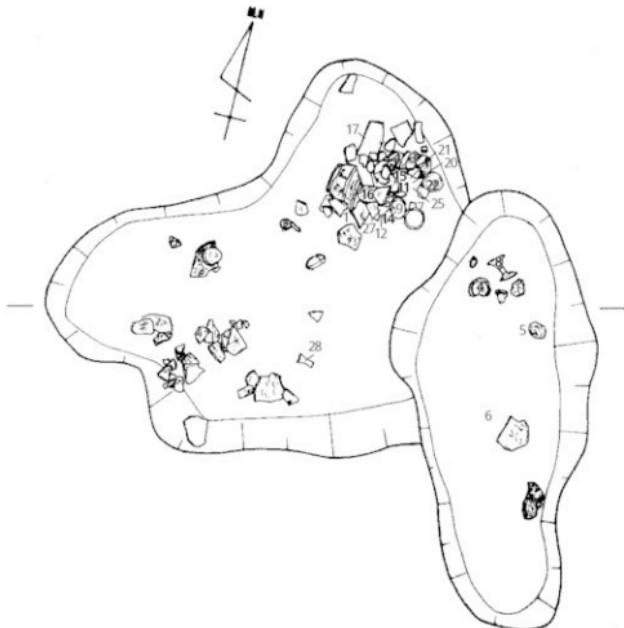
第4節 土坑

狹山池5号窯の西側で土坑を3つ検出した。土坑51は南北1.2m・東西1.0m・深さ0.2mを測り、平面円形を呈する土坑である(第17図)。狹山池5号窯の西南西約20mの地点に位置する。古代整地土層bをベース層とする。埋土は明黄褐色粘土と黄褐色砂質土で、土坑の底および明黄褐色粘土中に、須恵器蓋杯と土師器高杯を検出した。須恵器の型式は、TK217型式SI1併行期に含まれるものである。

狹山池5号窯の西側3mの地点で土坑76を検出した。南北2.8m・東西1.2m・深さ0.25mを測り、南北に長い楕円形を呈する。土坑76は隣接して検出した土坑78の埋土を切って掘られている(第18図)。5号窯窯体と同じく、古代整地土層aをベース層とする。埋土は黄褐色粘土と黄褐色砂質土で、土坑のほぼ底から、須恵器蓋杯・高杯・壺蓋・甕蓋を検出した。須恵器の型式は、TK217型式SI1併行期に含まれるものである。

土坑78は土坑76の西側に位置し、土坑76にその東端部を切られた状態で検出した。南北2.5m・東西2.4m(現存長)・深さ0.15mを測る不整形円形を呈する土坑である(第18図)。埋土は黄褐色砂質土で、土坑の底から、須恵器蓋杯と、高杯・長頸壺・壺蓋・提瓶の破片を検出した。須恵器の型式は、TK217型式SI1併行期に含まれると考えてよかろう。

これらの土坑が使用されたのは、狹山池5号窯の最終操業時期であるTK217型式SI1併行期と考えて支障ないであろう。出土した須恵器の器種構成も狹山池5号窯の窯体・灰原出土資



第19図 土坑76・78の遺物出土位置

料と近似している。また、土坑出土の須恵器は、比較的きれいな仕上がりの品が多い。これらのことから、この土坑群は、窯に付随する施設の跡と断定して良いであろう。5号窯で生産した須恵器を出荷するものと灰原へ投棄するものとに選別するための作業場として機能していたのではなかろうか。

第 5 節 出土遺物

(1) 焼成部・燃焼部出土遺物（第 20 図、図版 11、第 2 表）

焼成部・燃焼部の床面および炭灰土中から出土した須恵器のうち、図化が可能であった個体数は 23 点である。器種別の個体数は次の通り。杯身 4 点・杯蓋 12 点・長脚無蓋高杯（脚部）2 点・短脚無蓋高杯（脚部）3 点・壺蓋 1 点・甕蓋 1 点。

杯身の口径は 11cm ~ 13cm を測り、その法量分布は第 31 図のとおり、TK 43 集中域から TG 10-I 集中域にかけて分布する傾向を示している。杯身のたちあがり高・たちあがり角度は第 32 図のよう、TG 10-I 分布域・HI 1 分布域に分布する。また、長脚の無蓋高杯では、脚部に長方形スカシが切り込まれていないことが指摘できる。焼成部・燃焼部から出土したこれらの須恵器は、TK 217 型式 SI 1 併行期の操業によって生産されたものと考えて大過なからう。

(2) 灰原出土遺物（第 21 図 ~ 第 26 図、図版 12 ~ 図版 18、第 3 表・第 4 表）

焼成部・燃焼部の床面および炭灰土中から出土した須恵器のうち、図化をおこなった個体数は 140 点である。器種別の個体数は次の通り。杯身 40 点・杯蓋 28 点・椀 1 点・長脚有蓋高杯 4 点・長脚無蓋高杯 4 点・短脚無蓋高杯 24 点・高杯蓋 1 点・壺および短頸壺 12 点・壺蓋 5 点・長頸壺 1 点・甕 7 点・提瓶 4 点・平瓶 3 点・甕蓋 2 点・甕 2 点・鉢 1 点・器台 1 点。

杯身 38 は、口径 12.5cm・受部径 15.0cm・器高 5.0cm・たちあがり高 1.4cm・たちあがり角度 28°00' を計測し、たちあがり端部内面であまい段を成す形態的特徴を有している。これは、TK 10 型式新段階（MT 85 型式）の法量と形態をもった杯身である。他の灰原出土遺物と同一の操業期間において、本窯において生産されたものとは考えがたい。本窯に先行する窯あるいは集落などが近辺に所在し、ここに混入したものか、あるいは本窯の須恵器製作工人たちが何らかの意図で当該地に持ち込んだものであろう。第 31 図・第 32 図のデータは杯身 38 の数値をも含めたものとなっているが、本窯の灰原資料を評価するに際しては、これは除外するべきと考える。

さて、灰原から出土した杯身の口径は 10cm ~ 14cm を測る。その法量分布は第 31 図のとおり、TK 43 集中域と TG 10-I 集中域の端境から TG 10-I 集中域に集中して分布する傾向を示している。杯身のたちあがり高・たちあがり角度は第 32 図のよう、TK 43 分布域から TG 10-I 分布域・HI 1 分布域にかけて分布している。また、長脚の無蓋高杯にも個体間で型式差を確認できる。高杯 94 の脚部は、2 段 3 方向の配置でスカシを配置しながらも、2 方向のみに粗くスリット状スカシを切り込む。高杯 95 の脚部は、2 段 3 方向の配置でスカシを配置しながらも、2 方向のみに粗く長方形スカシを切り込む。高杯 90・93 は、2 段 2 方向の長方形スカシをもつ通有の形態をとる。これらの要素からみても、灰原出土の須恵器は、TK 209 型式期から TK 217 型式 SI 1 併行期にかけて、あるいはその移行期の操業によって生産されたものと判断される。これは、甕や提瓶の形態、平瓶が出土していることなど、他器種の様相からみても違和感のない考え方であろう。

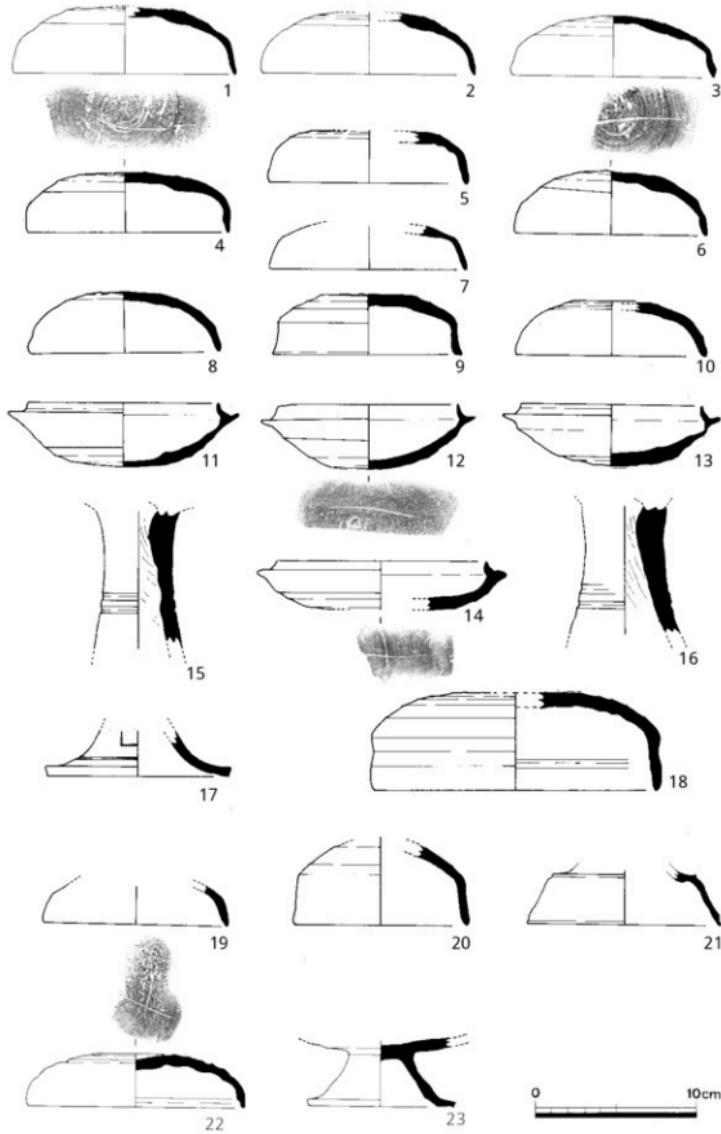
(3) 土坑出土遺物・整地土層出土遺物(第27図～第30図、図版19・図版20、第5表～第8表)

土坑 51 から出土した遺物のうち、図化が可能であったものは、須恵器杯身 2 点・杯蓋 3 点と、土師器高杯 2 点である。蓋杯の法量・形態は、狭山池 5 号窯窯体・灰原資料と同一のものである。また、土師器については遺存状態が良好でないため、詳細な形態が不明であるが、土坑の用途を考える上で興味深い資料である。TK217 型式 SI1 併行期の 5 号窯操業で生産されたものであろう。

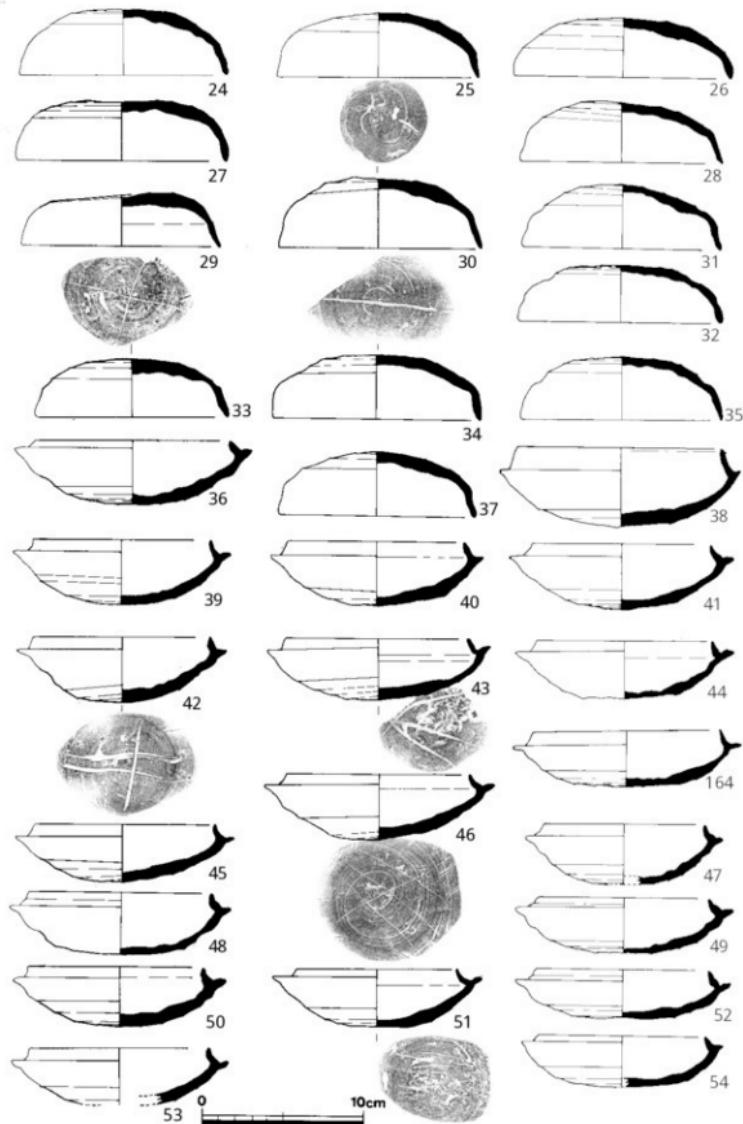
土坑 76 から出土した須恵器のうち、図化が可能であったのは、杯身 1 点・杯蓋 3 点・短脚無蓋高杯 1 点・長脚無蓋高杯 1 点・壺蓋 1 点・甕蓋 1 点である。杯身 4 は、口径 10.8cm・受部径 13.6cm・器高 3.8cm・たちあがり高 0.7cm・たちあがり角度 49°0' を計測する。この土坑の蓋杯の法量・形態も狭山池 5 号窯窯体・灰原資料と同一のものである。また、点数が少ないながらも、その器種構成は 5 号窯資料と共通している。土坑 78 の使用が終了したのに機能を開始した土坑 76 の出土遺物は、TK217 型式 SI1 併行期、5 号窯の最終段階の操業で生産されたものであろう。

土坑 78 から出土した須恵器のうち、図化可能であったのは、杯身 10 点・杯蓋 8 点・長脚無蓋高杯 3 点・短脚無蓋高杯 3 点・壺蓋 1 点・長頸壺 1 点・提瓶 2 点である。この土坑の蓋杯の法量・形態も 5 号窯窯体・灰原資料と同様で、他の器種構成も共通している。TK209 型式期から TK217 型式 SI1 併行期にかけての 5 号窯操業で生産されたものであろう。

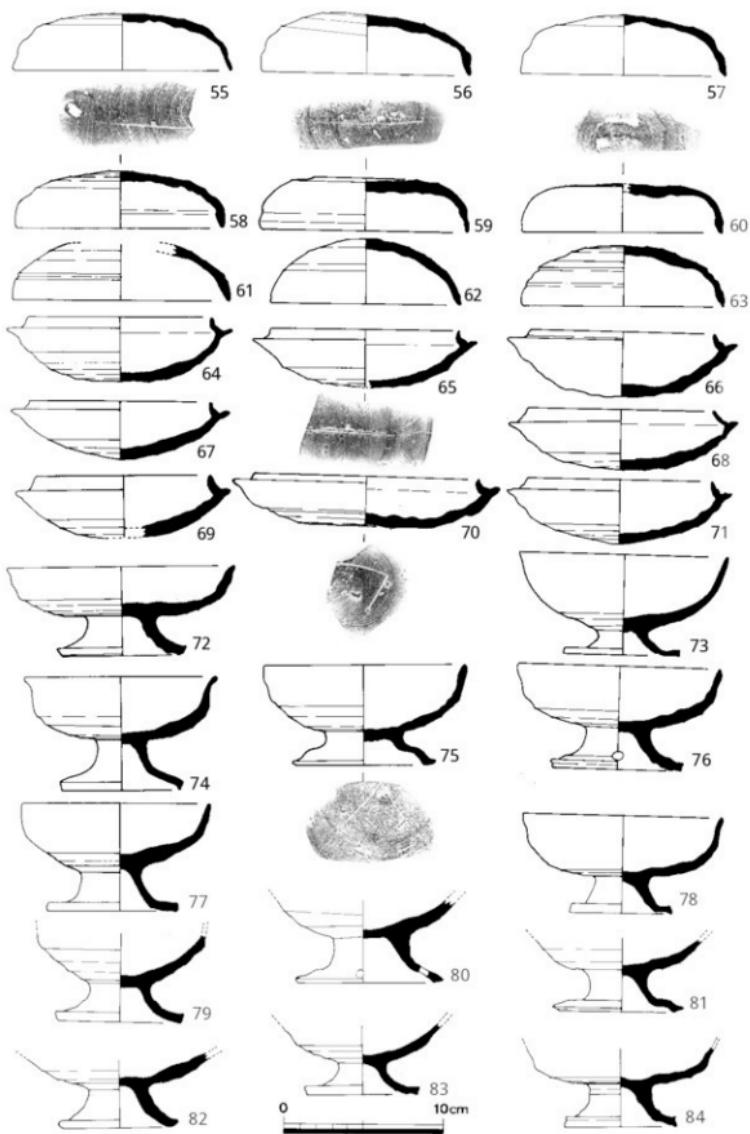
整地土層中から出土した須恵器杯身は、口径 11.0cm・受部径 13.0cm・器高 3.3cm・たちあがり高 0.6cm・たちあがり角度 34°0' を計測する。TK217 型式 SI1 併行期の資料である。



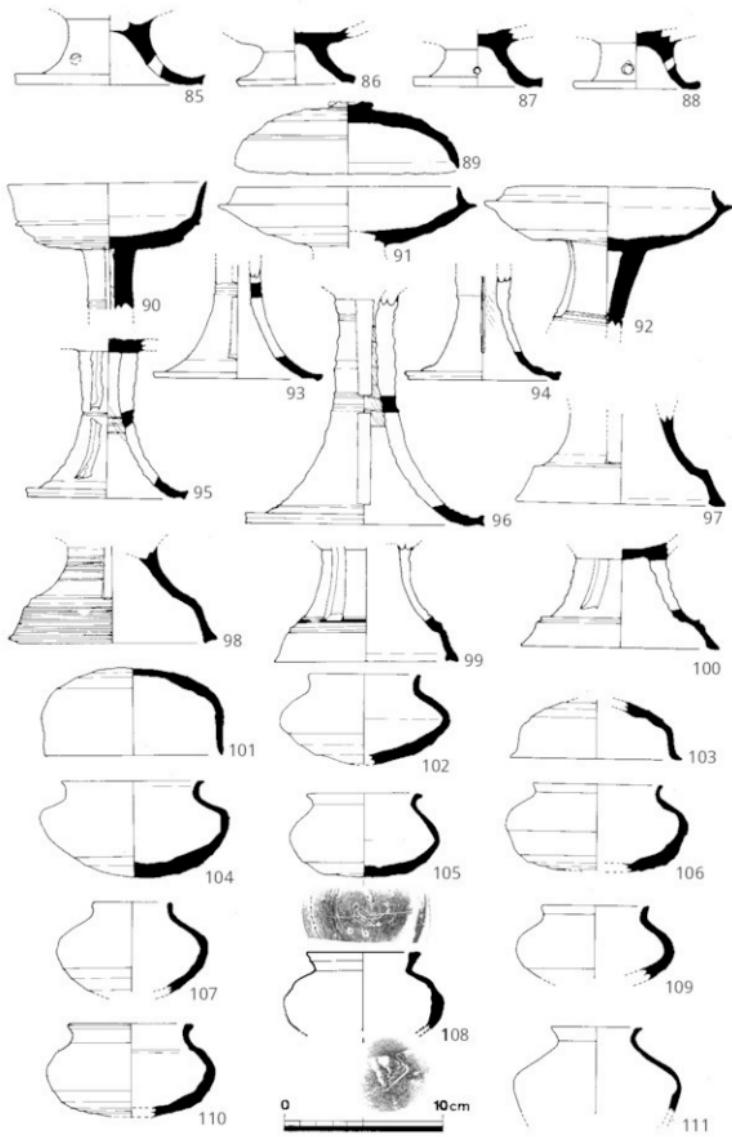
第20図 狹山池5号窯 燃成部・燃焼部出土遺物



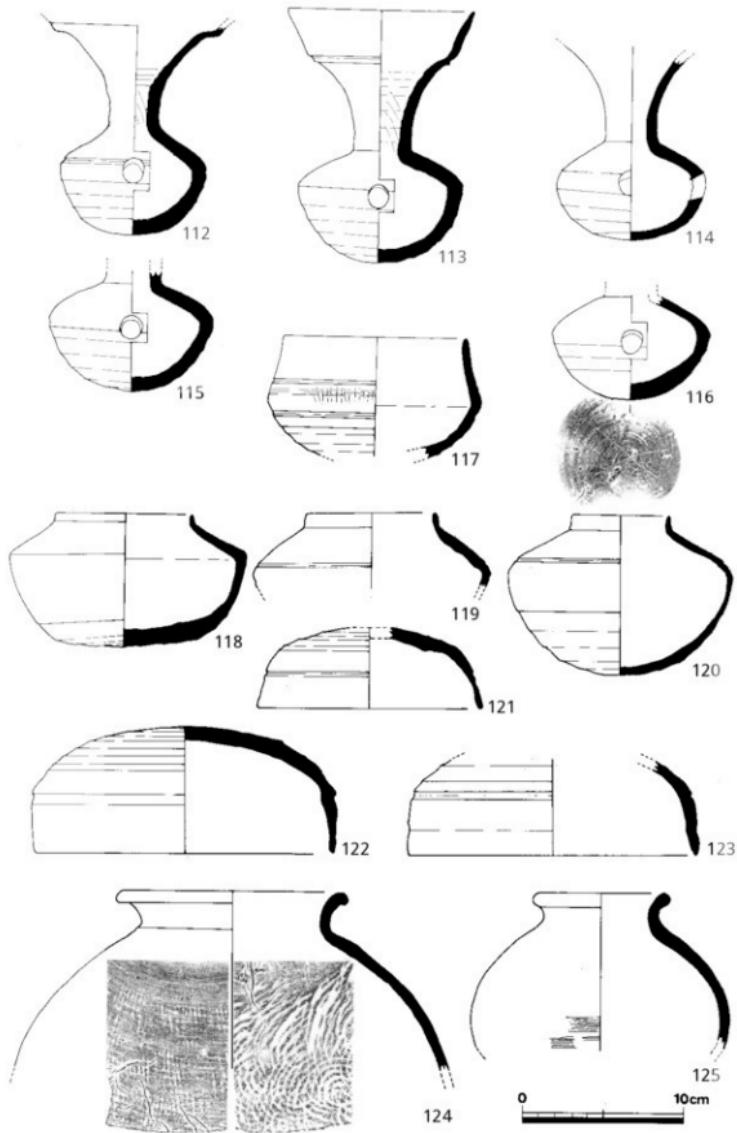
第21図 狹山池5号窯 灰原出土遺物(1)



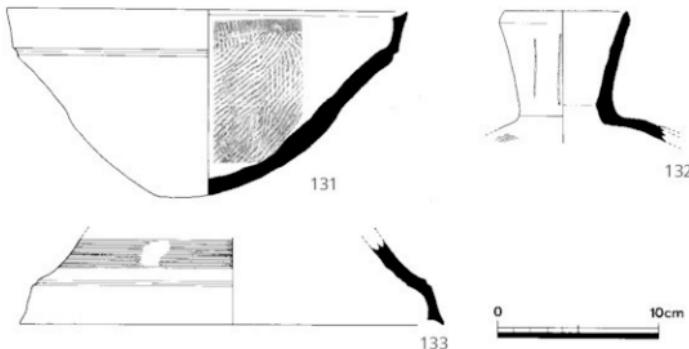
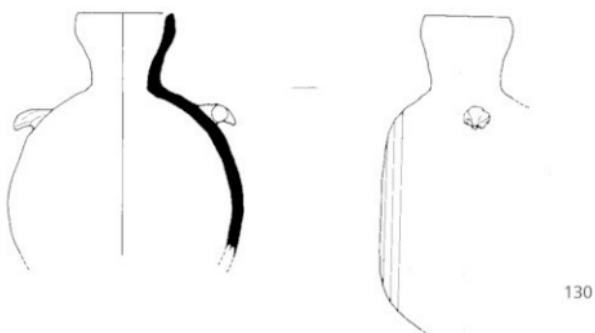
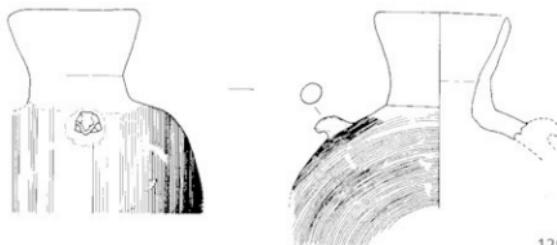
第22図 狹山池5号窯 灰原出土遺物(2)



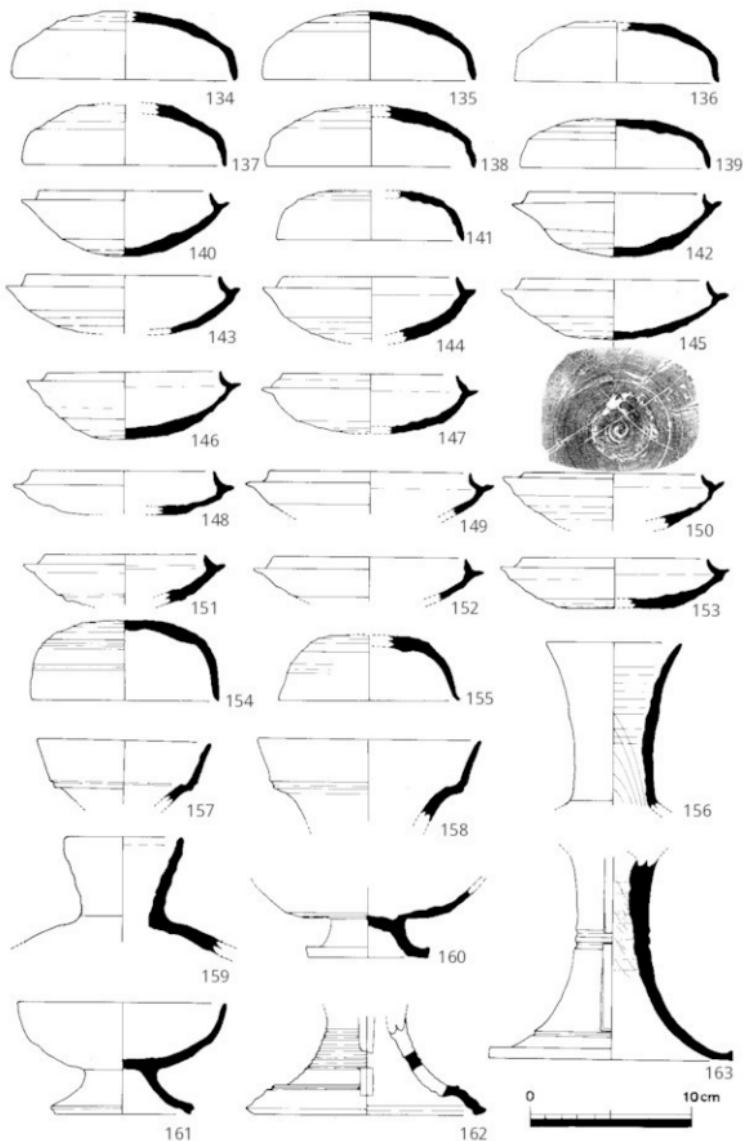
第23図 狹山池5号窯 灰原出土遺物(3)



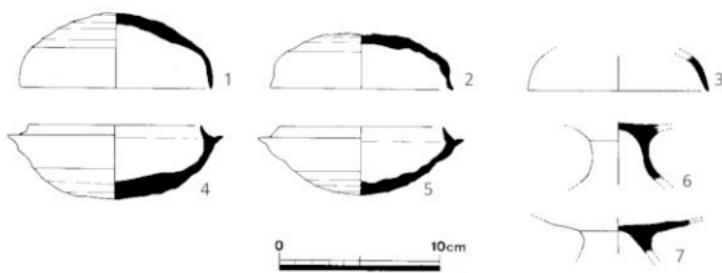
第24図 狹山池5号窯 灰原出土遺物(4)



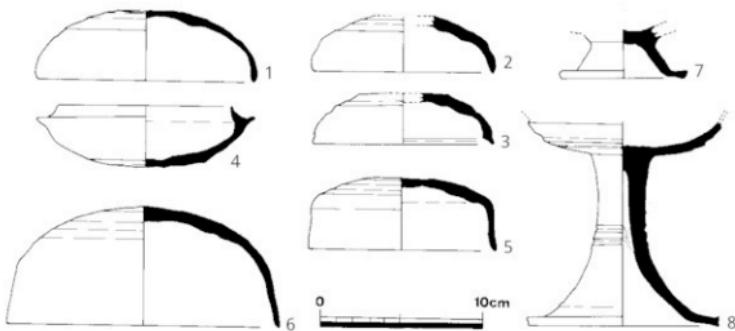
第25図 狹山池5号窯 灰原出土遺物(5)



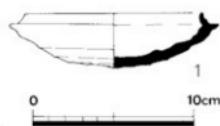
第26図 狹山池5号窯 灰原トレンチ出土遺物



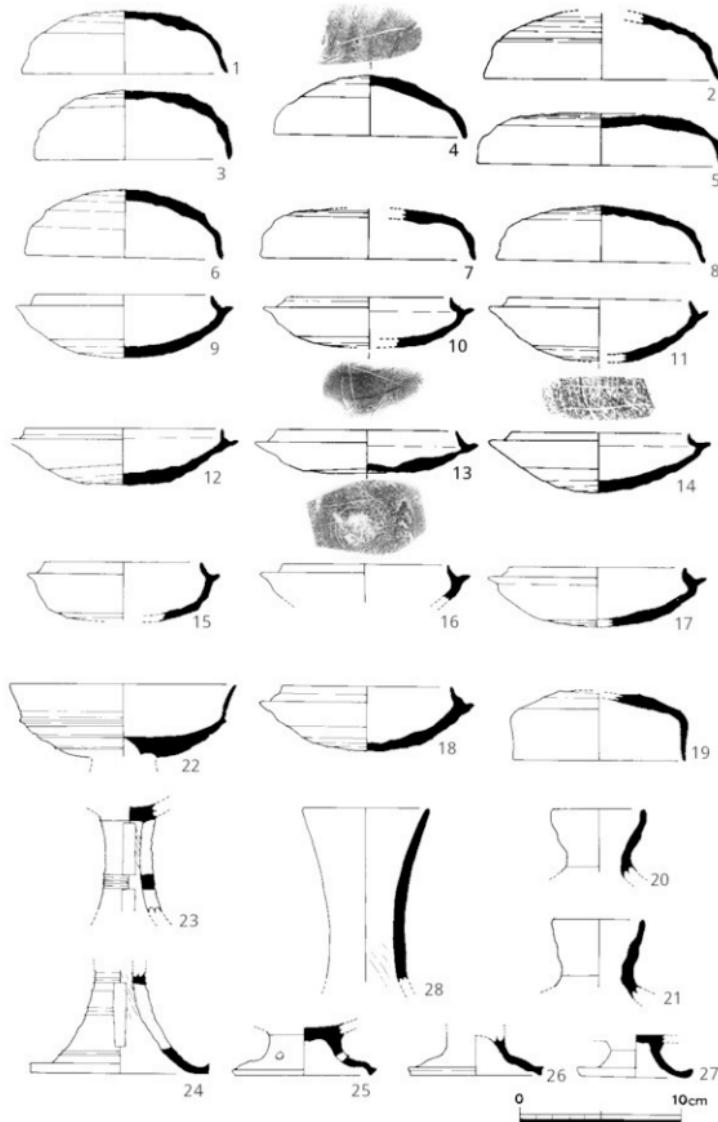
第27図 土坑51 出土遺物



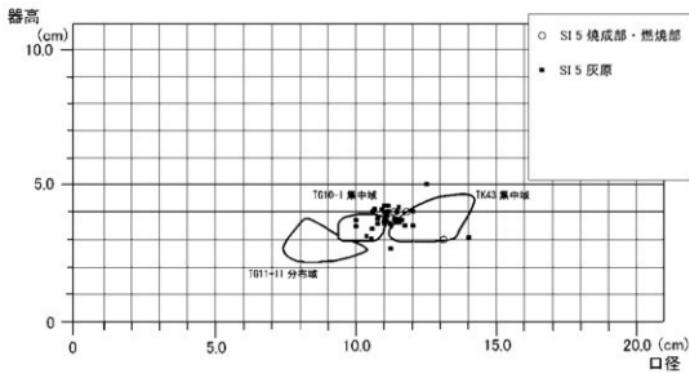
第28図 土坑76 出土遺物



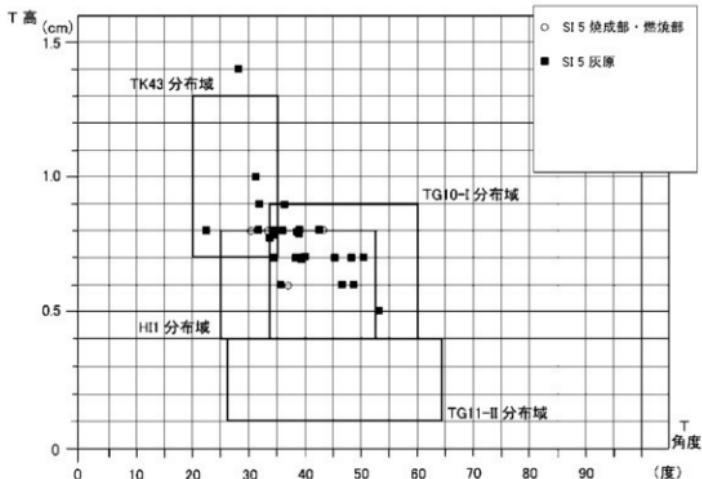
第29図 古代整地土層内 出土遺物



第30図 土坑78 出土遺物



第31図 狹山池5号窯の杯身法量



第32図 狹山池5号窯の杯身たちあがり

第2表 狹山池5号窯焼成部・燃焼部床面出土遺物観察表

器種	器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	20- 1	口径13.7 残存高4.1	体部・口縁部は下外方に下る。底部はやや丸い。天井部はややくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面1/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□回転:右方向。色調:暗灰色。 胎土:泥。2mm以下の長石を含む。 チャート不含む。焼成:良好。残存:1/4。 反転復元。内外面灰かゞみ。 燒き重ね。
杯蓋	20- 2	口径13.4 残存高3.8	体部・口縁部は下外方に下る。底部はやや丸い。天井部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面1/2、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□回転:右方向。色調:暗灰色。 胎土:泥。2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:2/3。反転復元。
杯蓋	20- 3	口径12.6 器高3.8	体部・口縁部はやや内凹して下外方に下る。底部は丸い。天井部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□回転:右方向。色調:灰色。 胎土:泥。2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:2/5。反転復元。
杯蓋	20- 4 11- 4	口径12.5 器高3.7	体部・口縁部はやや内凹してほぼ直角に下る。底部は丸い。天井部はくぼらに近い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:2/5。反転復元。 ヘラ記号:天井部外面に「一」,「」。
杯蓋	20- 5	口径11.4/ 残存高3.2	体部・口縁部は下外方に下る。底部は丸い。天井部はくぼら。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面1/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:泥。 3mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:2/8。反転復元。
杯蓋	20- 6	口径12.0 器高3.9	体部は下外方に下り、口縁部は下方に下る。底部はやや丸い。天井部はややくぼらに近い。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:4/4。反転復元。
杯蓋	20- 7	口径12.3 残存高2.7	体部・口縁部は下外方に下る。底部は丸い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアゲ、ミズビヒ成形。回転ナデ調整。	色調:暗緑色。胎土:泥。チャート不含む。 焼成:良好。残存:1/6。反転復元。
杯蓋	20- 8	口径11.8 器高3.8	体部・口縁部はやや内凹して下外方に下る。底部は丸い。天井部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面1/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:1/4。反転復元。
杯蓋	20- 9 11- 9	口径11.8 器高3.7	体部・口縁部はやや外反して下方に下る。底部は丸い。天井部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面3/5、回転ヘラ削り調整。天井部外面1/5、未調整。他の回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 チャート不含む。焼成:良好。 残存:1/2。全体に若干焼けむ。
杯蓋	20- 10	口径11.8 残存高3.4	体部・口縁部は下外方に下る。底部は丸い。天井部はくぼらに近い。	マキアゲ、ミズビヒ成形。天井部外面1/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:2/5。反転復元。
杯身	20- 11 11- 11	口径11.8 受部径14.3 器高40.0 T高0.8 T角度47°00'	たちあがきは内傾したの中位で直角立す。底部は丸い。受部は上方にのび。底部はくぼら。天井部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。直部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。底部は直角立す。	色調:灰色。胎土:泥。 6mm以下の長石を若干含む。チャート不含む。 焼成:良好。残存:1/2。外外面灰かゞみ。 他の回転ナデ調整。
杯身	20- 12 11- 12	口径11.8 受部径13.6 器高40.1 T高0.8 T角度37°00'	たちあがきは内傾したのびる。底部はやや丸い。受部は上方にのび。底部はややくぼら。底部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。直部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:4/5。 ヘラ記号:直部外面に「一」,「」。 外外面に土器片附着。全体に若干焼けむ。
杯身	20- 13 11- 13	口径11.2 受部径13.6 器高38.8 T高0.8 T角度30°15'	たちあがきは内傾したの中位で上方にのびる。底部は丸い。受部は上方にのび。底部は丸い。直部はくぼら。直部は平らに近い。	マキアゲ、ミズビヒ成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:暗緑色。胎土:泥。 3mm以下の長石を含む。チャート不含む。 焼成:良好。残存:2/3。内外面灰かゞみ。
杯身	20- 14 11- 14	口径13.1 受部径15.6 器高30.0 T高0.6 T角度37°00'	たちあがきは内傾したのち上方にのびる。底部は丸い。受部は上方にのび。底部はくぼら。直部はくぼら。	マキアゲ、ミズビヒ成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□回転:右方向。色調:淡灰色。 胎土:泥。1mmの長石を含む。 チャート不含む。焼成:良好。残存:2/5。 ヘラ記号:底部外面に「一」,「」。
高杯 (脚部)	20- 15	残存高2.8	脚部上方以上:下方以下欠損。 脚部は下外方に下る。 中位に2つの跡。1次脚をめぐらす。	マキアゲ、ミズビヒ成形。回転ナデ調整。内面にしのぎ(目尻)。	色調:暗灰色。胎土:泥。 1mmの長石を含む。チャート不含む。 焼成:良好。
高杯 (脚部)	20- 16	残存高8.0	脚部上方以上:下方以下欠損。 脚部は下外方に下る。 中位に2つの跡。1次脚をめぐらす。	マキアゲ、ミズビヒ成形。回転ナデ調整。内面にしのぎ(目尻)。	色調:灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を若干含む。 チャート不含む。焼成:良好。外外面灰かゞみ。
高杯 (脚部)	20- 17	脚底径11.4 残存高2.9	脚部中央以上欠損。 脚部は複部で下外方に開いてのびる。 複部は外側する平面を成し。 脚部下部欠損。 複部1側の跡。1次脚をめぐらす。 2方向の長方形スカリを有する。	マキアゲ、ミズビヒ成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:泥。 2mm以下の長石を含む。焼成:良好。

器種 図面 図版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
俵蓋 20-18 11-18	口径17.6 器高6.0	体部・口縁部はやや下外方に下る。端部は丸い。 天井部欠損。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面4/7、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:淡灰青色。 胎土:肥。燒成:良好。残存:1/2。 ヘラ記号:底部外面に「—」跡。
杯蓋 20-19	口径11.4 残存高2.4	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部欠損。	マキアグ.三辶牛成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:肥。 チャートを含む。 燒成:良好。残存:1/10以下。反転復元。
壺蓋? 20-20	口径10.8 残存高5.0	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部はやや丸くない。天井部中央欠損。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面1/5、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:肥。 2mm以下の中石を若干含む。 燒成:良好。残存:1/10以下。反転復元。 焼成:可能性渺。
高杯 脚部 20-21	腳底径12.0 残存高3.0	脚部のみ残存。縁部は上方である。段を作成し、 下外方に下る。端部は丸い。	マキアグ.三辶ビ成形。回転ナデ調整。	色調:暗青色。胎土:肥。 燒成:良好。残存:1/10以下。反転復元。
杯蓋 20-22	口径13.4 器高3.3	体部は下外方に下り、口縁部は下方に下る。 端部は丸く、内面に甘く押しつぶす。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:暗灰色。 胎土:肥。3mm以下の中石を若干含む。 燒成:良好。残存:1/4。 ヘラ記号:天井部外面に「#」記。
高杯 20-23	基部8.40 脚底径12.2 残存高4.4	杯体部以上欠损。杯底部は平らに近い。 脚部は下外方に下り、裾部で外方に短くのびる。 裾部部は外側する平面を成し、 端部下端で接着する。	マキアグ.三辶牛成形。杯底部外面1/6、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:肥。 2mm以下の中石を若干含む。 燒成:良好。残存:1/3以下。

第3表 狹山池5号窯灰原出土遺物觀察表

器種 図面 図版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋 21-24	口径12.8 器高4.1	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部はやや低く平らに近い。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面2/3、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:肥。 3mm以下の長石を若干含む。 燒成:良好。残存:1/3以下。
杯蓋 21-25 12-25	口径12.7 器高3.9	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部は低くや丸い。	マキアグ.三辶ビ成形。天井部外面1/4、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:淡灰色。 胎土:肥。3mm以下の長石を若干含む。 燒成:良好。残存:9/10。
杯蓋 21-26 12-26	口径13.4 器高3.5	体部・口縁部はやや内縮して下外方に下る。 端部は丸い。天井部は低くほぼ平ら。	マキアグ.三辶ビ成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:肥。3mm以下の長石を若干含む。 燒成:良好。残存:4/5。 ヘラ記号:天井部外面に「#」記。
杯蓋 21-27	口径13.0 器高3.7	体部は下外方に下り、口縁部は下方に下る。 端部は丸い。天井部は低く平ら。	マキアグ.三辶ビ成形。天井部外面1/4、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:肥。3mm以下の長石を若干含む。 燒成:良好。残存:3/4以下。
杯蓋 21-28	口径12.6 器高3.8	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。 天井部は低く平らに近い。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調:青灰色。胎土:肥。燒成:良好。殘存:9/10。
杯蓋 21-29 12-29	口径12.3 器高3.3	体部・口縁部は下外方に下る。端部はやや丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面3/5、 回転ヘラ削り調整。 天井部外面1/4(頂部)未調整。 他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:灰色。胎土:肥。 2mm以下の中石を若干含む。 燒成:良好。残存:3/10。
杯蓋 21-30 12-30	口径12.8 器高3.3	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部はやや低く平らに近い。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:灰色。胎土:肥。 2mm以下の中石を若干含む。チャートを含む。 燒成:良好。残存:3/4。 ヘラ記号:天井部外面に「—」跡。
杯蓋 21-31 13-31	口径12.4 器高3.9	体部は下方に下り、口縁部は下外方に下る。 端部は丸い。天井部は低くや丸い。	マキアグ.三辶牛成形。天井部外面4/7、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:内·朝灰紫色。 外·暗灰色。胎土:肥。 燒成:良好。残存:9/10。
杯蓋 21-32	口径12.8 器高3.6	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三辶ビ成形。天井部外面1/3、 回転ヘラ削り調整。 天井部外面1/4(頂部)未調整。 他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:暗灰色。 胎土:肥。燒成:良好。残存:1/4。反転復元。
杯蓋 21-33	口径12.0 器高3.7	体部・口縁部は下外方に下る。端部は丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三辶ビ成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。 天井部外面1/4(頂部)未調整。 他のは回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。 色調:暗灰色。 胎土:肥。3mm以下の長石をやや多く含む。 燒成:良好。残存:1/3。 ヘラ記号:天井部外面に「—」跡。

器種	回転 回数	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	21- 34	口径13.0 器高3.9	体部・口縁部は下方に下る。端部は丸い。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、三沢ヰ成形。天井部外面3/4、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/3。 ヘラ記号:天井部外面に「△」がある。
杯蓋	21- 35	口径12.6 器高3.9	体部・口縁部は下方に下る。端部はやや丸い。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、三沢ヰ成形。天井部外面4/7、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の中石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/3, 反転復元。
杯身	21- 36	口径12.0 受部径14.8 器高1.9 T高0.6 T角度46°00'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部は平らに近い。	マキアゲ、三沢ヰ成形。底部外面5/8、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	色調:内端灰青色。外端灰色。胎土:密。2mm以下の中石をやわらかく。焼成:良好。残存:1/2。
杯蓋	21- 37	口径12.4 器高4.0	体部は下方に下り、口縁部は下外方に下る。端部は丸い。天井部は低くやや丸い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。天井部外面2/5、回転へラ原ノ調査。天井部外面1/5 頂部↑未調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:1/2。
杯身	21- 38 12- 38	口径12.5 受部径15.0 器高5.0 T高1.4 T角度28°00'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は内面で常に下る。受部は成形。天井部は丸い。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部はやや深く、底部はやや丸い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面3/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。1mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:ほぼ完形。底部外面に土器片接着。
杯身	21- 39	口径11.2 受部径13.6 器高40.0 T高0.8 T角度30°30'	たちがあげは内側傾てのびのう。天井部はやや上方にのびる。端部はやや丸い。受部は外上方にのびる。端部は丸い。底体部は浅く、底部は平らに近い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面3/4、回転へラ原ノ調査。底部外面1/4(底部中央↑)未調整。他の回転ナデ調整。	色調:青灰紫色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:2/3。
杯身	21- 40 12- 40	口径11.1 受部径13.4 器高3.9 T高0.9 T角度32°00'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は丸い。受部は外上方に近くのび、端部は丸い。底体部は浅く、底部は平らに近い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面4/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:左方向。色調:暗灰色。胎土:密。1mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:ほぼ完形。受部に土器片接着。外腹反かがみ。
杯身	21- 41	口径11.2 受部径13.9 器高4.1 T高0.8 T角度42°30'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部は外上方にのびる。端部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面1/2、回転へラ原ノ調査。底部外面1/2(底部中央↑)未調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の中石を若干含む。焼成:良好。残存:1/4, 4面転写。
杯身	21- 42 12- 42	口径11.0 受部径13.0 器高4.1 T高0.8 T角度22°30'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部は外上方にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面1/3、回転へラ原ノ調査。底部外面1/3(底部中央↑)未調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗青灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:ほぼ完形。ヘラ記号:底部外面に「△」がある。
杯身	21- 43 12- 43	口径11.3 受部径13.0 器高3.8 T高0.7 T角度34°30'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部はやや上方にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部はほぼ平ら。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面4/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の長石・石英を含む。焼成:良好。残存:2/3, ヘラ記号:底部外面に「△」。 外腹に土器片接着。外面に自然移着。
杯身	21- 44 12- 44	口径10.8 受部径13.6 器高3.6 T高0.7 T角度30°00'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部はやや上方にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面2/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石をやわらかく。焼成:良好。残存:ほぼ完形。外面に土器片接着。外面反かがみ。
杯身	21- 164	口径11.7 受部径14.2 器高3.4 T高0.9 T角度36°00'	たちがあげは内側傾てのびる。端部はやや丸い。受部はほぼ水平にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面2/3、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。焼成:良好。残存:2/3。
杯身	21- 45 12- 45	口径11.2 受部径13.6 器高3.6 T高0.8 T角度34°45'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は丸い。受部はやや上方にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面2/3、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗青色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:ほぼ完形。外腹反かがみ。全體に焼合歪曲。
杯身	21- 46 13- 46	口径11.5 受部径14.4 残存高4.1 T高0.6 T角度46°45'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび。端部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面4/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:9/10。 ヘラ記号:底部外面に「△」。
杯身	21- 47 13- 47	口径10.0 受部径12.4 器高3.7 T高0.8 T角度39°15'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび。端部は丸い。底部は丸い。底体部はやや浅く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面4/5、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。焼成:良好。残存:4/5, ヘラ記号:底部外面「△」。外腹反かがみ。
杯身	21- 48 13- 48	口径11.4 受部径13.8 器高3.8 T高0.6 T角度35°30'	たちがあげは内側傾てのびる。端部は丸い。受部は外上方にのび。端部は丸い。底体部はやや浅く、底部はほぼ平ら。	マキアゲ、ミズヒヤ成形。底部外面3/4、回転へラ原ノ調査。他の回転ナデ調整。	色調:淡灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:3/4, 外面に土器片接着。外腹反かがみ。

器種	固有 固版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯舟	21- 49	口径10.6 受部径13.6 器高14 T 高0.7 T角度45°30'	たちあがいは内傾したの中位で上方にのびる。 縁部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。 底体部は浅く、底部はほぼ平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面5/4。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。 焼成:良好。残存:3/4。	
杯舟	21- 50 13- 50	口径11.4 受部径13.2 器高15 T 高0.7 T角度36°30'	たちあがいは内傾してのびる。 端部は丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部はほぼ平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面2/3。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗緑灰色。 胎土:密。4mm以下の中長石を多く含む。焼成:良好。 残存:9/10。ヘラ記号:底部外側に「x」。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。4mm以下の中長石を多く含む。焼成:良好。 残存:9/10。ヘラ記号:底部外側に「x」。 外面に砂目。 底部表面灰かげ。	
杯舟	21- 51	口径10.6 受部径13.0 器高15 T 高0.7 T角度50°30'	たちあがいは内傾したのちやや反して上方への のびる。 縁部は丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部は平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面3/4。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:灰青。 胎土:密。3mm以下の中長石を含む。チャートを含む。 焼成:良好。残存:2/2。ヘラ記号:底部 外面に砂目。 底部表面灰かげ。	
杯舟	21- 52	口径10.6 受部径13.4 器高10 T 高0.8 T角度37°30'	たちあがいは内側へのびる。 縁部は丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部は平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面1/4。 回転ヘラ削り調整。底部外面「X」直部 中央)未調整。他の回転ナデ調整。 色調:暗灰色。 胎土:密。焼成:良好。 残存:1/4。反転僅か。 外面灰かげ。	
杯舟	21- 53	口径11.2 受部径13.4 残存35 T 高0.8 T角度33°15'	たちあがいは内傾したの中位でほぼ直立する。 縁部は丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部は直立。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面2/3。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:青灰色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:1/8以下。反転僅か。	
杯舟	21- 54	口径10.4 受部径12.5 器高11.7 T 高0.5 T角度47°00'	たちあがいは内傾してのびる。 縁部はやや丸い。 受部は外方にのびる。 縁部は丸い。 底体部は浅く、底部は平ら。直部中央欠損。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面4/5。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:淡灰色。 胎土:密。チャートを含む。 焼成:良好。残存:1/2。	
杯蓋	22- 55	口径13.6 器高35	体部はやや下に下り。縁部は下方に下る。 縁部は丸い。天井部は低く平らに近い。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面4/7。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗緑灰色。 胎土:密。焼成:良好。残存:3/4。外面に土片煙着。	
杯蓋	22- 56 13- 56	口径13.0 器高37	体部・縁部はやや下方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面3/7。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。残存:1/2。 ヘラ記号:天井部外側に「L」。 焼成:良好。残存:1/2。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。残存:1/2。反転僅か。 外面に土片煙着。	
杯蓋	22- 57	口径12.8 器高3.7	体部・縁部は下外方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低くやや丸い。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面3/7。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。残存:1/4。反転僅か。	
杯蓋	22- 58	口径13.0 器高3.5	体部・縁部は下方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低く平らに近い。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面5/6。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:内-淡青色。 外-暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。残存:3/4。 ヘラ記号:天井部外側に「—」。 外側灰かげ。	
杯蓋	22- 59 13- 59	口径13.0 器高3.3	体部は下方に下り。縁部は下外方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面4/7。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:暗灰青色。 胎土:密。3mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。残存:3/4。 ヘラ記号:天井部外側に「—」。 外側灰かげ。	
杯蓋	22- 60 13- 60	口径12.6 器高3.0	体部・縫縫部は下方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低く平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面4/7。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:暗灰青色。 胎土:密。焼成:良好。 残存:4/5。ヘラ記号:天井部外面に「—」。 焼成:良好。残存:4/5。	
杯蓋	22- 61	口径13.4 残存3.5	体部・縫縫部は下方に下る。 縁部は丸い。 天井部は低く。天井部中央欠損。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:灰褐色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/10以下。 反転僅元。	
杯蓋	22- 62	口径11.8 器高4.0	体部・縫縫部は下外方に下る。 縁部は丸い。 天井部はややくさく丸い。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面3/5。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:暗青色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/5以下。 反転僅元。	
杯蓋	22- 63	口径12.4 器高3.7	体部・縫縫部は下外方に下る。 縁部は丸い。 天井部はやく平らに近い。	マキアグ.三ズビ牛成形。天井部外面5/6。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/2以下。 外側灰かげ。	
杯舟	22- 64 13- 64	口径11.4 受部径12.0 器高10 T 高0.8 T角度38°30'	たちあがいは内傾したの中位で上方にのびる。 縁部は丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部はやや浅く、底部はほぼ平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面4/5。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 ロクロ回転・右方向。色調:灰色。 胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:1/2。	
杯舟	22- 65	口径11.7 受部径14.0 器高3.7 T 高0.8 T角度38°00'	たちあがいは内傾したの中位で上方にのびる。 縁部はやや丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部は平らに近い。 直部中央欠損。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部外面5/6。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:灰色。 胎土:密。4mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:1/2。ヘラ記号:底部外側に「—」。 焼成:良好。	
杯舟	22- 66	口径11.4 受部径14.4 器高4.0 T 高0.7 T角度39°15'	たちあがいは内傾したの中位で上内方にのびる。 縁部はやや丸い。 受部は外上方にのび、縁部は丸い。 底体部は浅く、底部はほぼ平ら。	マキアグ.三ズビ牛成形。底部作面。 回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。 色調:暗灰青色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。チャートを含む。焼成:良好。 残存:2/3。外側灰かげ。	

種類	回転 回数	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	22~67	口径11.0 受部径139 器高3.7 T高0.7 T角度30°30'	たちがあがりは内側にしたのち底部で直立する。 謎部はやや丸い。受部は上方にのび、 謎部は丸い。底体部は近く、底部はやや丸い。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面S/6、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3。 反転復元。
杯身	22~68 13~68	口径11.5 受部径143 器高3.7 T高0.7 T角度46°100'	たちがあがりは内側にしたのひる。 謎部は丸い。受部は上方にのび、謎部は丸い。 底体部は近く、底部はほぼ平ら。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面S/6、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	ロフロ回転. 右方向。色調: 灰色。胎土: 密。 3mm以下の長石を含む。チャートを含む。 焼成: 良好。残存: 9/10。
杯身	22~69	口径10.8 受部径134 器高3.8 T高1.0 T角度31°15'	たちがあがりは内側にしたのち中位で上方にのびる。 謎部は丸い。受部は下方に則りのび、謎部は丸い。 底体部は近く、底部はほんに凹る。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面4/5、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 青灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を若干含む。焼成: 良好。残存: 1/5以下。 反転復元。
杯身	22~70	口径14.0 受部径168 器高3.1 T高0.5 T角度52°00'	たちがあがりは内側にしたのち底で上方にのびる。 謎部はやや丸い。受部は上方にのび、謎部は丸い。 底体部は近く、底部は平ら。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面シ/5、 回転ヘラ削り調整。底部外面U/5 底部 中央)未調整。他のは回転ナデ調整。	ロフロ回転. 右方向。色調: 暗灰色。胎土: 密。 焼成: 良好。残存: 1/3。へら記号: 底部外面に「v」あひ。内面灰かぶ。
杯身	22~71	口径11.4 受部径140 器高4.0 T高0.8 T角度30°15'	たちがあがりは内側にしたのひる。 謎部はやや丸い。受部は上方にのび、謎部はやや丸い。 底体部は近く、底部は平らに凸る。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面S/6、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 鮮灰青色。胎土: 密。燒成: 良好。 残存: 1/5. 反転復元。
高杯	22~72 14~72	口径14.2 基部径46 脚底径7.6 腳高3.4 器高5.5	体部・口縁部はやや内側して上方にのび、 謎部は丸い。底体部は近く、底部はやく、 脚底部は近く、底部は平ら。脚部は外反して 下方にのびる。謎底部は外修飾する平面を成し、 謎部内側で接着する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面1/3、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 暗灰色。胎土: 密。3mm以下の長石を 多く含む。焼成: 良好。残存: 1/3。 底部外面灰かぶ。内外面に自然釉付着。
高杯	22~73	口径12.8 基部径32 脚底径7.2 腿高1.5 器高6.2	体部・口縁部はやや内側して上方にのび、 謎部は丸い。底体部はやく、底部はやく。 脚部は外反して下方にのびる。謎部内側で接 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面1/4、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 青灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を 若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3。 一部反転復元。
高杯	22~74	口径11.9 基部径32 脚底径7.6 腿高3.4 器高7.0	体部は上方にのび、口縁部は上方にのび、 謎部は丸い。底体部はやく、底部はやく。 脚部は外反して下方にのびる。謎底部は外修 飾する平面を成し、謎部内側で接着する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面2/3、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 鮮灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を 若干含む。焼成: 良好。残存: 2/3. 反転復元。
高杯	22~75 14~75	口径12.8 基部径48 脚底径6.6 腿高2.1 器高6.2	体部・口縁部は上方にのび、謎部は丸い。 底体部はやく、底部は平ら。脚部は外反し て下方にのびる。謎部は外下方向にのびる。 謎底部は外修飾する平面を成し、謎部内側で接 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面シ/5、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 鮮灰青色。胎土: 密。2mm以下の長石 を若干含む。焼成: 良好。残存: 3/5。 へら記号: 底部外面に「v」あひ。
高杯	22~76 14~76	口径12.6 基部径42 脚底径8.0 腿高2.6 器高6.4	体部・口縁部は上方にのび、謎部は丸い。 底体部はやく、底部はほぼ平ら。脚部は外下 方向にのび。T字型。謎部は外修飾する平面を成し、 謎内底と謎脚部内側で接接着する。2方向に円孔 スカラ有する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面3/5、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 鮮灰色。胎土: 密。燒成: 良好。 残存: 2/2. 反転復元。
高杯	22~77	口径11.6 基部径38 脚底径8.2 腿高2.9 器高6.7	体部・口縁部は上方にのび、謎部はやや 丸い。底体部は近く、底部はやく。謎部は外下 方向にのび。T字型。謎部は外修飾する平面を成し、 謎内底と謎脚部内側で接接着する。4方向に円孔 スカラ有する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。底部内面一部、ナデ 調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を 含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/4。 脚部は焼成玉。
高杯	22~78	口径12.4 基部径36 脚底径6.3 腿高2.4 器高6.1	体部・口縁部は上方にのび、謎部は丸い。 底体部はやく、底部は平ら。脚部は下方に 下ったのち謎部は上方にのびる。謎底部は内 締する平面を成し、謎部内側で接着する。	マキアグ. 三三六牛成形、底部外面1/6、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 青灰色。胎土: 密。2mm以下の長石を 若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3以下。 反転復元。脚底部は焼成玉。
高杯	22~79 14~79	基部径3.8 腿底7.6 脚底2.3 残存5.5	体部・口縁部欠損。底体部はやや深く、底部は 丸い。脚部は下外方に下ったのち謎部が下方にの びる。謎底部は外修飾する平面を成し、謎部内側で 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形。底部外面、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄色。胎土: 密。燒成: 良好。残存: 1/2。 内外面灰かぶ。
高杯	22~80 14~80	基部径4.8 腿底8.5 脚高2.6 残存5.2	体部・口縁部欠損。底体部は近く、底部はや く。脚部は下外方に下ったのち謎部が下方にの びる。謎底部は外修飾する平面を成し、謎部内側で 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形。底部外面1/2、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄色。胎土: 密。1mmの長石を若干 含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/2(?)。内外面灰かぶ。内外面に自然釉付着。全体に焼成玉。
高杯	22~81	基部径4.5 腿底7.2 脚高2.6 残存4.6	体部・口縁部欠損。底体部は丸く、底部は 平ら。脚部は下外方に下ったのち謎部が下方にの びる。謎底部は外修飾する平面を成し、謎部内側で 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形。底部外面4/5、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄色。胎土: 密。3mm以下の長石を わずかに含む。焼成: 良好。残存: 脚部3/4、 内外面灰かぶ。内外面に自然釉付着。脚部は 焼成玉。
高杯	22~82	基部径3.6 腿底6.5 脚高2.4 残存4.65	体部・口縁部欠損。底体部は丸く、底部は 平ら。脚部は下外方に下ったのち謎部が下方にの びる。謎底部は外修飾する平面を成し、謎部内側で 接着する。	マキアグ. 三三六牛成形。底部外面3/4、 回転ヘラ削り調整。他のは回転ナデ調整。	色調: 黄色。胎土: 密。2mm以下の長石を わずかに含む。焼成: 良好。残存: 脚部3/4、 内外面灰かぶ。内外面に自然釉付着。

器種	固有 固版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯	22~83	基部径32 脚直径6.8 脚高2.4 残存高4.3	体部・口縁部欠損。底体部は浅く、底部は平ら。脚部は外下方に開いて下る。複葉部は丸く、葉部内側で接着する。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面1/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/3以下。内外面灰かぶり。
高杯	22~84	基部径42 脚直径7.0 脚高2.7 残存高4.8	体部・口縁部欠損。底体部は浅く、底部は平ら。脚部は外下方に開いて下る。複葉部は丸く、葉部内側で接着する。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面1/2、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	色調:暗灰青色。胎土:密。3mm以下の長石をわずかに含む。焼成:良好。残存:1/3以下。反転復元。
高杯	23~85	基部径35 脚直径7.6 脚高4.0 残存高4.3	杯部欠損。脚部は外方に開いて下る。複葉部は外側する平面を成し、葉部内側で接着する。3方向に円孔スカンを有す。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/4以下。
高杯	23~86	基部径40 脚直径7.1 脚高2.6 残存高3.5	体部・口縁部欠損。底部は平ら。脚部は外方に下る。複葉部は外側する平面を成し、葉部内側で接着する。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面1/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:脚部ほぼ完形。
高杯	23~87	基部径38 脚直径8.0 脚高2.4 残存高3.7	杯部欠損。脚部は外下方に下ったのち、複葉部で外方にのびる。複葉部はやや外側する平面を成し、脚部内側で接着する。2方向に円孔スカンを有す。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。残存:脚部1/4。
高杯	23~88 14~88	基部径44 脚直径7.6 脚高2.8 残存高3.6	杯部欠損。脚部は外下方に下ったのち、複葉部で外方にのびる。複葉部は丸く、複部内側で接着する。3方向に円孔スカンを有す。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。1mmの長石をわずかに含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:脚部1/3、外間に自然焼付材。
高杯蓋	23~89 15~89	口径140 つまみ紐2.8 蓋高4.5 つまみ高0.5	体部・口縁部はやや壊れて下外方に下る。複葉部は丸く、内側に凹凸を作す。天井部は低く、天井部外番中央部から中央部が凹む扁平な形状を作す。天井・天井部周縁に凹みは認められず。	マキアグ_三五ビヒ成形。天井部外面3/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰青色。胎土:密。3mm以下:の長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:天井部ほぼ完形、内面灰かぶり。外間に自然焼付材。
高杯	23~90 15~90	口径12.4 基部径3.3 残存高7.8	体部・口縁部は外方にのびる。葉部はやや丸く、葉部内側はやや凹く、底部は平ら。底部・葉部邊は外側する平面。底部上方1/2の位置にやや凹む。脚部をめらす。葉部は下方に下る。脚部は位に1.2倍の沈線をめくる。2段2方向に長方形スカスカを有する。葉部中位以下欠損。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面2/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。脚部内面にしづ(泪痕)。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。2mmの長石・石片を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:杯部1/4、内面灰かぶり。
高杯	23~91	口径12.4 基部径3.3 残存高7.8	たちがいは内側してのび、葉部はやや丸い。葉部は水平のひび、葉部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。杯底部以下欠損。脚部は基部のみ残存。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。3mm以下の長石を多く含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:杯部1/4、受部上面・底体部外周に自然焼付材。
高杯	23~92 15~92	口径13.8 受部径16.0 基部径4.8 残存高13.7 T高1.1 T角度30°0'0"	たちがいは内側したのち位で上内方にのびる。葉部はやや丸く、葉部はやや丸い。葉部は外方にのびる。葉部は丸く、葉部は底体部は丸く、底部は平ら。葉部は下方方にのびたのち下方に下る。葉部中心に2重の意匠的に斜に(沈線)をめらす。2段2方向に長方形スカスカを有する。葉部中位以下欠損。	マキアグ_三五ビヒ成形。底部外面、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。葉部内面にしづ(泪痕)。	ロクロ回転:右方向。色調:杯部内面・灰色、外側灰・胎土:密。2mmの長石を若干含む。焼成:良好。残存:杯部ほぼ完形、外側灰かぶり。全体に燒成歪む。
高杯	23~93 15~93	口径12.8 受部径15.5 基部径5.1 残存高8.6 T高1.0 T角度36°0'0"	葉部以上欠損。脚部は外方に下下外方に下る。複葉部は外側する平面を作し、葉部内側で接着する。複葉部中位に2重の意匠的に斜に(沈線)をめらす。2段2方向に長方形スカスカを有する。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。脚部内面にしづ(泪痕)。	ロクロ回転:右方向。色調:灰青色。胎土:密。2mm以下:の長石を含む。焼成:良好。残存:脚部1/2、外間に自然焼付材。
高杯	23~94 15~94	脚底径9.4 残存高4.6	脚部中位以上欠損。脚部は下外方に下ったのち、外反して下内方に下る。複葉部はやや外側する平面を成し、葉部内側で接着する。脚部中位に1重の意匠に斜に(沈線)をめらす。2段3方向の配置で2方向のみに斜に(沈線)を有する。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。脚部内面にしづ(泪痕)。	ロクロ回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。焼成:やや不良。残存:脚部1/2。
高杯	23~95 15~95	基部径3.6 脚底径9.8 脚高0.1 残存高9.8	杯底部以上欠損。脚部はやや下内方に下ったのち、外反して下内方に下る。複葉部はやや外側する平面を成し、葉部内側で接着する。脚部中位に1重の意匠に斜に(沈線)をめらす。2段3方向の配置で2方向のみに斜に(沈線)を有する。	マキアグ_三五ビヒ成形。回転ナデ調整。脚部内面にしづ(泪痕)。	ロクロ回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。残存:脚部ほぼ完形。

器種	回転回数	法量（cm）	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯	23~96	基部径140 脚底径15.0 脚高139 残存高142	脚部は下方に下ったのち、 複部で外反して外下方にのびる。複部はやや 内傾する凹面を成し、複内部と脚部外側で接地 する。脚部上方に1巻の背風型に内傾した複部をめぐ らし、脚部中心に2巻の背風型複部をめぐらす。 複部上方に2巻の背風型複部をめぐらす。 2方向に長方形スカラ有する。	マキアゲ、三ズビ成形。回転ナデ調整。 脚部内面にしづき痕が入る。	□□口回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:脚部2/5。
高杯	23~97	脚底径12.8 残存高5.5	脚部中位以上欠損。脚部は下外方に外反して 下ったのち、複部上方で段差成し、複部は下外 方に下る。複部は内傾する凹面を成し、脚部外側で接地 する。2方向に長方形スカラ有する。	マキアゲ、三ズビ成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。チャートを含む。 焼成:良好。残存:脚部1/4、反転復元。
高杯	23~98	脚底径12.8 残存高6.0	脚部上方以上欠損。脚部は下外方に外反して 下ったのち、複部上方で非常にあれ、羽を出し、 複部は下外方に下る。複部は内傾する凹面を成し、 脚部内側で接地する。脚部下方に3条の背風型複部を めぐらす。3方向に長方形スカラ有する。	マキアゲ、三ズビ成形。脚部外面3/5、 方目調整。他は回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。チャートを含む。 焼成:良好。残存:脚部1/5、反転復元。
高杯	23~99	基部径5.6 脚底径1.6 脚高7.1 残存高7.1	脚部中位以上欠損。脚部は下外方に外反して 下ったのち、複部上方で段差成し、複部は下外 方に下る。複部は内傾する凹面を成し、脚部外側で接地 する。脚部下方に3条の背風型複部を めぐらす。3方向に長方形スカラ有する。	マキアゲ、三ズビ成形。回転ナデ調整。	色調:淡灰青色。胎土:密。2mm以下の長石 をわずかに含む。焼成:良好。残存:脚部2/5。
高杯	23~100 15~100	基部径5.3 脚底径12.1 脚高5.2 残存高5.7	脚部欠損。複部は下外方に下ったのち、複部上方 で段差成しで凸部めぐらしし、複部は下外方に 下る。複部は内傾する凹面を成し、脚部外側で接地 する。3方向に長方形スカラ有する。	マキアゲ、三ズビ成形。回転ナデ調整。	色調:暗銀色。胎土:密。2mm以下の長石を わずかに含む。焼成:良好。残存:脚部1/3、 反転復元。内外灰皮が付く。
壺蓋	23~101 16~101	口径11.0 器高54	体部はや下方向に下る。口縁部は下方に下る。 脚部は丸い。天井部はやや高くやや丸い。	マキアゲ、三ズビ成形。天井部外面4/5、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。3mm以下の長石を 若干含む。焼成:良好。残存:1/3。
招福壺	23~102 16~102	口径7.0 基部径6.9 体部最大径10.6 残存高6.6	口縁部は基部から上方方にのび、脚部は丸い。 脚部は外下方に下り、体部は下方に下る。底部 は丸くやや丸い。底部中央欠損。体部最大径は 中に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面4/5、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	□□口回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:1/2。
壺蓋	23~103	口径10.6 器高36	体部は上方方に下り。口縁部は外反し、脚部は やや丸い。脚部内面は内修する。天井部は低く やや丸い。	マキアゲ、三ズビ成形。天井部外面1/2、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	□□口回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:1/4、反転復元。
壺	23~104 16~104	口径8.9 基部径8.4 体部最大径11.8 器高6.1	口縁部は基部から外反して上方方にのび、脚部 は丸い。脚部は下外方に下り。体部は下内方に 下る。底部は底平に近い。底部中央欠損。 体部最大径は上方1/3に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面3/4、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:2/3。
壺	23~105	口径6.5 基部径6.4 体部最大径9.4 器高5.2	口縁部は基部から外反して上方方にのび、脚部 は丸い。脚部は下外方に下り。体部は下内方に 下る。底部は底平に近い。底部中央欠損。 体部最大径は上方2/5に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面2/3、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	□□口回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。 焼成:良好。残存:1/2、ヘリ記号-底部外 面に「…」記号、底部外面に土器層を接着。 外面灰皮が付く。外面に自然釉付着。
招福壺	23~106	口径8.0 基部径7.8 体部最大径11.2 残存高4	口縁部は基部から外反して上方方にのび、脚部 は丸い。脚部は下外方に下り。体部は下内方に 下る。底部は底平に近い。底部中央欠損。 体部最大径は上方1/3に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面4/5、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。焼成:良好。残存:1/3、 反転復元。
招福壺	23~107	口径4.8 基部径5.2 体部最大径9.4 残存高5.6	口縁部は基部から上方方にのび、脚部は丸い。 脚部は外下方に下り。体部は内下方に下る。 底部は丸い。底部中央欠損。体部最大径は上 方2/5に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面4/5、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の長石を 若干含む。焼成:良好。残存:1/4以下。
壺	23~108	口径7.2 基部径6.0 体部最大径10.0 残存高4.7	口縁部は基部から上方方にのび、脚部は丸い。 脚部は外下方に下り。体部は下方に下る。 底部欠損。体部最大径は中に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。焼成:良好。 残存:1/4以下。反転復元。
招福壺	23~109	口径6.6 基部径6.4 体部最大径9.8 残存高4.5	口縁部は基部から上方方にのび、脚部は丸い。 脚部は外下方に下り。体部は下方に下る。 底部は丸い。底部中央欠損。体部最大径は中 位に位置する。	マキアゲ、三ズビ成形。底部外面1/2、 回転ヘラ削痕。他は回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。焼成:良好。 残存:1/8以下。反転復元。外面灰皮が付く。

器種	固有 固版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
壺	23~110	口径7.8 基部径7.6 体部最大径10.4 残存高5.8	縁部は基部から外反して上方にのび、縁部は丸い。肩部は下方に下り、体部は下内方に下る。底部は浅くほぼ平ら。底部中央欠損。 体部最大径は中位に位置する。	マキアゲ_三ズビ成形、底部外面1面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転: 右方向。色調: 雑灰青色。 胎土: 硬。焼成: 良好。残存: 2/3。ヘラ記号: 底部外面に「×」あり。
壺	23~111	口径5.6 基部径4.8 体部最大径10.4 残存高5.1	口縁部が基部から上方方にのび、縁部は丸い。肩部は下方に下り、体部は下内方に下る。底部欠損。	マキアゲ_三ズビ成形、回転ナダ調整。	色調: 雜灰。胎土: 密。焼成: 良好。残存: 1/5。反転復元。
壺	24~112 17~112	基部径3.0 体部最大径9.0 残存高13.1	縁部はやや上方にのびたものから反して上方方にのびる。口縁部は下で開き、印を成す。 口縁部欠損。肩部は下方に下ってやや張り出し、体部は上方内方に下る。底部は丸い。 体部最大径は上方 1/3 に位置し、ほぼ中位の高さに円孔を穿つ。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。 唇部内面に(+)印あり。	ロクロ回転: 右方向。色調: 雜灰青色。 胎土: 硬。2mm以下の長石をやや多く含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 5/6。
壺	24~113 17~113	口径11.8 基部径3.6 体部最大径10.4 器高15.2	縁部は外反して上方方にのび、口縁部下で斜む。 縁部は上方外方にのび、縁部は丸い。 肩部は外下方に下って張り出す。体部は下方に下る。底部は丸い。体部最大径は上方 1/3 に位置し、その少し下方に円孔を穿つ。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。 唇部内面に(+)印あり。	ロクロ回転: 右方向。色調: 青灰色。 胎土: 密。4mm以下の長石をやや多く含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 9/10。内外面や灰かぶり。
壺	24~114 17~114	基部径3.4 体部最大径9.4 残存高12.0	縁部は外反して上方方にのびる。口縁部欠損。 肩部は外下方に下り、体部は下内方に下る。底部は丸い。 体部最大径は上方 2/3 に位置し、その位置に円孔を穿つ。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。 胎土: 硬。3mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 3/5。	ロクロ回転: 右方向。色調: 淡青灰色。 胎土: 硬。3mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/2。
壺	24~115 17~115	基部径3.8 体部最大径10.3 残存高7.3	縁部は上方にのびる。縁部低位以上欠損。 肩部は外下方に下って張り出す。体部は下内方に下る。 底部は丸い。体部最大径は上方 2/7 に位置し、その少し下方に円孔を穿つ。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。 唇部内面に(+)印あり。	ロクロ回転: 右方向。色調: 青灰色。胎土: 密。4mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/2。
壺	24~116 17~116	体部最大径9.8 残存高6.6	口縁部欠損。肩部は外下方に下ってやや張り出す。 体部は下内方に下る。底部は丸い。 体部最大径は上方 5/11 に位置し、ほぼ中位の高さに円孔を穿つ。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転: 右方向。色調: 純灰色。胎土: 密。3mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/2。 ヘラ記号: 腹部外面に「×」あり。 底体部外側に土器片焼着。 肩部外面反かぶり。
瓶	24~117	口径11.6 体部最大径13.4 残存高7.4	体部・口縁部はやや外反しながら上方にのびる。 縁部は丸い。底部は深く深い。体部に2条、底部1条の長い凹溝をめぐらす。底部中央欠損。 縁部横の可能性あり。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	色調: 雜灰。胎土: 硬。 2mm以下の長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/5。 内外面に自然難付。
短颈壺	24~118 16~118	口径5.5 基部径8.8 体部最大径14.8 器高10.3	口縁部は基部上方にのび、縁部は丸い。 肩部は外下方に下って張り出し、体部は下内方に下る。 底部は浅くほぼ平ら。体部最大径は上方 1/4 に位置する。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転: 右方向。色調: 青灰色。胎土: 硬。1mmの長石を含む。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 2/3。内外面灰かぶり。 内外面に自然難付。
短颈壺	24~119	口径6.0 基部径8.4 体部最大径14.8 器高4.6	口縁部は基部から上方にのび、縁部は丸い。 肩部は外下方に下り、体部は下内方に下る。 底部は深く丸い。肩部下方に1条の長い凹溝をめぐらす。	マキアゲ_三ズビ成形、回転ナダ調整。	色調: 純灰色。胎土: 硬。3mmの長石をやや多く含む。焼成: 良好。残存: 1/8。反転復元。 外面に自然難付。
短颈壺	24~120	口径6.0 基部径6.4 体部最大径14.0 器高10.0	口縁部は基部から上方にのび、縁部は丸い。 肩部は外下方に下り、体部は下内方に下る。 底部は深く丸い。肩部下方に1条の長い凹溝をめぐらす。	マキアゲ_三ズビ成形、底体部外面1/6、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	色調: 灰色。胎土: 密。焼成: 良好。残存: 2/5。
壺蓋	24~121	口径4.0 残存高5.0	体部・口縁部は下外方に下り、縁部は丸い。 天井部は浅くやや丸い。底部・体部境界付近に1条の鋸の跡(?)線をめぐらす。天井部中央欠損。	マキアゲ_三ズビ成形、天井部外面1/2、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	ロクロ回転: 右方向。色調: 雜灰青色。 胎土: 硬。3mm以下の中石を若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3。
俵蓋	24~122 16~122	口径18.8 器高7.8	体部・口縁部はほぼ垂直に下る。縁部は丸い。 天井部は浅くやや丸い。底部・体部境界付近に1条の鋸の跡(?)線をめぐらす。天井部中央欠損。	マキアゲ_三ズビ成形、天井部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	色調: 淡灰色。胎土: 密。3mm以下の長石を若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3。
俵蓋	24~123	口径17.8 残存高5.9	体部は下方に下り、口縁部は下外方に下る。 縁部は丸い。天井部・体部境界に1条の沈れをめぐらす。天井部はやや低い。天井部中央欠損。	マキアゲ_三ズビ成形、天井部外面、回転ヘラ削刃調整。他の回転ナダ調整。	色調: 淡灰色。胎土: 密。チャートを含む。焼成: 良好。残存: 1/4。反転復元。
俵	24~124	口径13.8 基部径12.0 残存高11.0	口縁部は外反して上方にのび、口縁部下で下方にのびたものの中、内窓して上方にのびる。 肩部は下外方に下る。体部以下欠損。	マキアゲ_三ズビ成形、肩部外面、タタキ。回転ナダ調整。	色調: 青灰色。胎土: 密。3mm以下の長石を若干含む。焼成: 良好。残存: 1/3以下。反転復元。

第5表 土坑51出土遺物観察表

器種	表面 因縫	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	27- 1 19- 2	口径11.9 器高4.1	体部・口縁部は下方に下る。縁部はやや丸い。天井部はややくぼみ。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。チャートを含む。燒成:良好。残存:1/3。口縁部や焼きむし、縫合部:良好。残存:1/3。
杯蓋	27- 2 19- 3	口径11.4 器高3.3	体部はやや下方に下り、口縁部は下方外方に下る。縁部は丸い。天井部は低く平らに凸む。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。天井部外面1/3(頂部)未調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。燒成:良好。残存:1/3。縫合部:良好。
杯蓋	27- 3 19- 4	口径11.2 残存高2.3	体部・口縁部は下方外方に下る。縁部は丸い。天井部は低い。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。燒成:良好。残存:1/10以下。反転復元。
杯身	27- 4 19- 5	口径12.0 受部14.4 器高4.2 T高0.8 T角度40°/30'	たちあが江内傾してのびる。縁部はやや丸い。受部は上方外方にのびる。縁部は丸い。受部は外上方に窪むのび、縁部は丸い。底部はやや深く、底部は平らに近い。底部の断面が厚い。	マキアゲ、三辺牛成形。底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の長石を含む。燒成:良好。残存:充分。
杯身	27- 5 19- 6	口径10.2 受部12.8 器高4.2 T高0.8 T角度41°/30'	たちあが江内傾してのびる。縁部はやや丸い。受部は上方外方にのびる。縁部は丸い。底部は丸い。底部は平らに近い。	マキアゲ、三辺牛成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。底部外面1/4(底部中央)未調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。燒成:良好。残存:3/4。
土器蓋 高杯	27- 6 27- 7	基部径3.8 残存高3.8	杯部欠損。脚部は下外方に外にして下る。縫合部欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。回転ナデ調整。	色調:淡灰色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。燒成:良好。
土器蓋 高杯	27- 7	基部径4.7 残存高2.2	杯部上半欠損。杯底部は平ら。脚部は下外方に下る。脚部下半欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。回転ナデ調整。	色調:淡灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。燒成:良好。

第6表 土坑76出土遺物観察表

器種	表面 因縫	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	28- 1 19- 2	口径13.4 器高4.4	体部・口縁部は内側して下方に下る。縁部はやや丸い。天井部はややくぼみ。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の長石を含む。チャートを含む。燒成:良好。残存:1/4。
杯蓋	28- 2 19- 3	口径11.0 残存高3.5	体部・口縁部は下方外方に下る。縁部は丸い。天井部は低く平らに近い。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。2mm以下の長石を含む。燒成:良好。残存:1/4。
壺蓋	28- 3 19- 4	口径11.2 残存高3.2	体部・口縁部は下方外方に下る。縁部内面は内側する平面を成し、あれ程も成す。天井部は低く平ら。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面1/2、回転ヘラ削り調整。天井部外面1/4(中央)未調整。他の回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。3mm以下の長石を多く含む。燒成:良好。残存:1/3。反転復元。
杯身	28- 4 19- 5	口径10.8 受部13.6 器高4.0 T高0.7 T角度49°/30'	たちあが江内傾したのち縁部で上内方にのびる。縁部はやや丸い。受部は外上方にのび、縁部は丸い。底部はややくぼみ。底部はほぼ平ら。	マキアゲ、三辺牛成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の長石を含む。チャートを含む。燒成:良好。残存:3/4。受部に土器片焼着。外側灰か少。
壺蓋	28- 5 19- 6	口径11.6 残存高4.4	体部・口縁部は下方に下る。縁部内面は内側する平面を成す。天井部は低く平らに近い。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	色調:暗灰色。胎土:密。3mm以下の長石を若干含む。燒成:良好。残存:7/8。
俵蓋	28- 6 19- 7	口径16.9 器高7.4	体部・口縁部は下方外方に下る。縁部は丸い。天井部は高くやや丸い。	マキアゲ、三辺牛成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。内淡青灰色。外灰青色。胎土:密。3mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。燒成:良好。残存:5/8。
高杯	28- 7	基部径4.0 腹底径7.4 脚高2.3 残存高3.2	杯部欠損。脚部は外下方に下ったのち、縁部は外方に下る。縫合部は外側する平面を成し、縫合部内面で接する。縫合部中位に2条の長い沈縫をめぐらす。縫合部に1条の非常に長い沈縫をめぐらす。	マキアゲ、三辺牛成形。回転ナデ調整。	色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の長石を若干含む。燒成:良好。残存:脚部充形。杯部1/3、内面灰か少。
高杯	28- 8 19- 9	基部径3.8 腹底径11.9 腹高10.6 残存高12.7	体部・口縁部欠損。底部は浅く、底部は平らに近い。底部・体部焼跡。底部上方1/2の位置にやや深い窓をめぐらす。縫合部は下方に下ったのち外方に外して下る。縫合部はやや外側する凹面を成し、縫合部内側で接する。縫合部中位に2条の長い沈縫をめぐらす。縫合部に1条の非常に長い沈縫をめぐらす。	マキアゲ、三辺牛成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。縫合部内面にしま(泡痕)。	□□□回転:右方向。色調:淡青灰色。胎土:密。4mm以下の長石を若干含む。チャートを含む。燒成:良好。残存:縫合部充形。杯部1/3、内面灰か少。

第7表 土坑78出土遺物觀察表

器種	図版 図版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	30- 1	口径12.8 器高3.9	体部・口縁部は下方に下る。縁部は丸い。天井部は底く平らに近い。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗灰青色。胎土:密。3mm以下の中長石を多く含む。焼成:良好。残存:1/2。
杯蓋	30- 2	口径14.6 残存高4.1	体部は下方に下り。口縁部は下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底くや丸い。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面4/9、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:淡灰黃色。胎土:密。2mm以下の中長石を含む。焼成:不良。残存:4/5。
杯蓋	30- 3 20- 3	口径11.2 残存高2.3	体部・口縁部はや内側して下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底く平ら。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面1/3、回転ヘラ削り調整。天井部外面1/7、頂部ノミ未調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。3mm以下の中長石をや多く含む。焼成:良好。残存:4/5。外表面内部内面灰かぶり。口縁部に自然難付着。
杯蓋	30- 4	口径12.0 器高3.7	体部・口縁部は下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底くや丸い。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面4/7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の中長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:3/5。ヘラ記号:「T」天井部外面に「一」あり。外表面に自然難付着。
杯蓋	30- 5	口径15.2 器高3.2	体部・口縁部は下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底く平ら。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:暗灰青色。胎土:密。焼成:良好。残存:1/4。外転復元。
杯蓋	30- 6 20- 6	口径12.3 器高4.2	体部・口縁部はや外反して下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底くや丸い。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。3mm以下の中長石を若干含む。焼成:良好。残存:7/8。一部外転復元。
杯蓋	30- 7	口径13.2 残存高3.1	体部・口縁部は下方に下る。縁部は丸い。天井部は底く平ら。天井部中央欠損。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。2mm以下の中長石を若干含む。焼成:良好。残存:1/3。外転復元。
杯蓋	30- 8	口径12.4 器高3.2	体部・口縁部は下外方に下る。縁部は丸い。天井部は底く平らに近い。	マキアゲ、三辺二牛成形。天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。焼成:良好。残存:1/3。外転復元。
杯身	30- 9 20- 9	口径11.0 受部径13.6 器高40.0 T高0.8 T角度33°5'	たちがは内傾してのびる。縁部は丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部は丸い。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の中長石を若干含む。焼成:良好。残存:9/10。底部外側灰かぶり。底部外面に自然難付着。
杯身	30- 10	口径10.2 受部径13.2 器高3.1 T高0.8 T角度40°0'	たちがは内傾したのち縁部はほぼ直立する。縁部はや丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。底部中央欠損。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/5。ヘラ記号:底部外側に「×」あり。外表面灰かぶり。外転復元。
杯身	30- 11	口径11.3 受部径13.6 器高3.8 T高0.8 T角度33°0'	たちがは内傾してのびる。縁部はやや細い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部は丸い。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の中長石を若干含む。焼成:良好。残存:2/5。ヘラ記号:底部外側に「×」あり。底部外側灰かぶり。
杯身	30- 12 20- 12	口径12.2 受部径14.4 器高15.1 T高0.8 T角度30°1'	たちがは内傾したの中位で直立する。縁部は丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。4mm以下の中長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:4/5。外表面灰かぶり。外表面に自然難付着。全周に燒き玉。
杯身	30- 13 20- 13	口径11.2 受部径14.0 器高2.8 T高0.8 T角度40°0'	たちがは内傾してのびる。縁部はやや丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部は平ら。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。4mm以下の中長石を含む。チャートを含む。焼成:良好。残存:4/5。ヘラ記号:底部外側に「×」。外表面灰かぶり。
杯身	30- 14 20- 14	口径11.0 受部径13.9 器高3.8 T高0.8 T角度51°0'	たちがは内傾したのち縁部は上方にのびる。縁部はやや細い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部は浅く、底部はやや丸い。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。2mm以下の中長石を含む。焼成:良好。残存:7/8。底部外側灰かぶり。
杯身	30- 15	口径9.9 受部径10.0 残存高3.6 T高0.8 T角度50°0'	たちがは内傾してのびる。縁部は丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部はやや深く、底部は平らに近い。底部中央欠損。	マキアゲ、三辺二牛成形。底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他の回転ナデ調整。	ロクロ回転:右方向。色調:灰青色。胎土:密。2mm以下の中長石を含む。焼成:良好。残存:7/8。
杯身	30- 16	口径10.4 受部径13.2 残存高2.2 T高0.7 T角度37°30'	たちがは内傾してのびる。縁部はやや丸い。受部は外上方にのび。縁部は丸い。底体部欠損。	マキアゲ、三辺二牛成形。回転ナデ調整。	色調:灰色。胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。残存:1/10以下。

器種	図面 図版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯舟	30- 17	口径10.9 受部径13.0 残存高38.0 T高6.7 T角度42°30'	たちあがりは内傾したのち縦部で上方にのびる。 縦部は丸い。受部は外上方にのひ。 縦部は丸く、底部は平らに近い。 底部中央欠損。	マキアグ_三匹牛成形。底部外側面1/10。 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	□□口回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:2/7。反転復元。
杯舟	30- 18 20- 18	口径10.6 受部径13.1 器高4.0 T高1.3 T角度40°00'	たちあがりは内傾したのち中位で上方にのびる。 縦部はやや丸い。受部は外上方にのひ。 縦部は丸い。底部はやや丸く、底部は平らに 近い。	マキアグ_三匹牛成形。底部外側面9/10。 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:ほぼ完形。
盃蓋	30- 19 20- 19	口径10.6 残存高42	体部・口縁部はやや内側しながら直面に下る。 縦部は丸い。天井部は低くならに近い。 天井部中央欠損。	マキアグ_三匹牛成形。天井部外側面4/5。 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 焼成:良好。残存:3/4。
提瓶	30- 20	口径5.6 基部径4.4 残存高39	縦部は外反して上方にのひ。口縁部は内側し て上方にのひる。縦部は丸い。肩部下欠損。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。 2mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。
提瓶	30- 21	口径5.6 基部径4.6 残存高42	口縁部は外反したのち上方にのひる。縦部は 丸い。肩部以下欠損。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 焼成:良好。
高杯	30- 22 20- 22	口径14.0 残存高45	体部・口縁部はやや外反しながら上方にのびる。 縦部は低く、底部はやや丸い。 底部・体部側面にやや斜い縦線。底面上方1/3 の位置に斜い縦線を、底部下1/3の位置に非 常に斜い縦線をめぐらす。	マキアグ_三匹牛成形。底部外側面、回転 ハラ削り調整。他は回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:灰色。胎土:密。 2mm以下の長石をわずかに含む。焼成: 良好。残存:杯部2/3、内外面灰かゞり。
高杯	30- 23	基部径3.4 残存高65	杯部外反。縫隙部は外反して下方に下る。中位 2条の斜1次縫をめぐらす。縦部欠損。2段2 方向に長方形スカンを有する。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。 脚部内面にしづり痕あり。	□□□回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。 焼成:良好。反転復元。外面灰かゞり。
高杯	30- 24	脚底径11.0 残存高64	杯部・脚部上方欠損。脚部は中位より外反して 下方に入り、縫隙部は外方にのひる。縦部 は内側して下方に入る。縦部は外側する平 面をめぐらし、縫隙部内側で接地する。 中位に2条の斜1次縫を、縫隙部上方1/4の位置 と下方1/4の位置に1条の斜1次縫をめぐらす。 2段2方向に長方形スカンを有する。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。 脚部内面にしづり痕あり。	□□□回転:右方向。色調:暗灰色。胎土:密。 焼成:良好。反転復元。縫隙部外側灰かゞり。
高杯	30- 25 20- 25	基部径4.4 脚底径6.4 脚高2.5 残存高32	杯部欠損。縫隙部は外反して下方に入り、縫隙 部は内側して下方に入る。縦部は外側する平 面をめぐらし、縫隙部内側で接地する。3方向に円孔 スカがある。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。 3mm以下の長石を若干含む。焼成:良好。 残存:脚部7/8。
高杯	30- 26	脚底径8.0 残存高25	杯部欠損。縫隙部は下外方に下ったのち下方に 下る。縫隙部は外側する平面をめぐらし、縫隙部内側 で接地する。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:青灰色。 胎土:密。2mm以下の長石をやや多く含む。 焼成:良好。
高杯	30- 27	基部径10.0 脚底径6.6 脚高2.1 残存高26	杯部欠損。縫隙部は外反して下方に入る。 縫隙部は外側する平面をめぐらし、縫隙部内側で接地 する。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。 焼成:良好。外面一部灰かゞり。
長縫甌	30- 28	口径7.9 残存高10.8	口縁部は上方にのひるのち外反して上方に のびる。縦部は丸い。肩部以下欠損。	マキアグ_三匹牛成形。回転ナデ調整。 縫隙部内面にしづり痕あり。	□□□回転:右方向。色調:淡灰色。胎土:密。 1mmの長石を若干含む。チャートを含む。 焼成:良好。残存:口縁部1/2。

第8表 古代整地土層内出土遺物観察表

器種	図面 図版	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯舟	29- 1	口径11.0 受部径13.0 器高1.3 T高0.6 T角度34°00'	たちあがりは内傾したのち中位で直立する。 縦部は丸い。受部は外上方にのひ。 縦部は丸い。底部は丸く、底部は平らに近い。	マキアグ_三匹牛成形。底部外側面7/8。 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	□□□回転:右方向。色調:青灰色。胎土:密。 4mm以下の長石を含む。チャートを含む。 焼成:良好。残存:ほぼ完形。 ヘラ記号:底部外側に「-」記。

第5章　まとめ

今回、18世紀に造営されて19世紀中頃の幕末期まで機能していた狭山藩陣屋跡下屋敷の中核域において発掘調査を実施した。結果、屋敷地と思われる遺構群を数箇所で検出した。今後、近辺における調査成果が得ることができ、これらとデータを統合していくことができれば、下屋敷内の土地利用・土地区画を復元することも不可能ではなかろう。また、この近世遺構が形成された広大な平坦面は、7世紀初頭以前から7世紀前葉に盛土が行われた古代整地土層と、18世紀以前に盛土が行われた近世整地土層で開析谷の斜面を埋め立てて形成されていた。

また、開析谷の斜面に盛られた古代整地土層上では、TK209型式期からTK217型式SI1併行期に操業した狭山池5号窯の窯体と灰原が遺存していた。全長約6mの比較的規模の小さな窯窓が、この時期に狭山池で用いられていたのは非常に興味深い事実である。かつて、7世紀前葉に築かれた狭山池の堤の北斜面において、狭山池1号窯の灰原を発掘調査した¹⁾。狭山池の堤が古代・中世・近世・近現代と補修を重ねてきたためか、堤の斜面において狭山池1号窯の窯体は確認できなかった。この場所に全長10m程度の窯窓を構築するには、堤の斜面を斜行して登る窓か、堤の頂部を貫通して池内側斜面に向けてのびる窓を想定せざるをえなかった。ゆえに、狭山池北堤に窯窓を築くのは不可能ではないのかといった意見も存在した。ところが、操業時期をほぼ同じくする狭山池5号窯が、全長約6mの小規模な窯窓で須恵器を生産していたことが判明した。北堤に築かれていた狭山池1号窯の窯体も同様な規模の窯窓を採用していた可能性がわかつて高い。つまり、狭山池1号窯構築に関する物理的な問題は解決されたといえよう。

ところで、調査区内に広がっていた古代整地土の土質は砂礫を主体とするものである。開析谷の北側斜面にも同様に盛土がなされていたとすれば、この谷地形の整形に要した土量は膨大なものとなる。この大量の砂礫土はどこから運ばれてきたものであろうか²⁾。今後の調査研究に期待したい。

註記

1)『狭山池』埋蔵文化財編、狭山池調査事務所、1998年

2) 土砂採取地の候補として、狭山池築造工事の際に用いられた仮排水路を挙げうるが確証はない。『特別展 狹山池築造と須恵器窯』大阪狭山市立郷土資料館、2004年

報 告 書 抄 錄

ふりがな	さやまいけ5ごうがま・さやまはんじんやあと							
書名	狭山池5号窯・狭山藩陣屋跡							
副書名								
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書							
シリーズ番号	31							
編著者名	植田隆司・市川秀之							
編集機関	大阪狭山市教育委員会							
所在地	〒 589-0011 大阪府大阪狭山市狭山1丁目 2384-1 TEL.072-366-0011							
発行年月日	西暦 2004年12月29日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さやまいけ5ごうがま 狭山池5号窯・ さやまはんじんやあと 狭山藩陣屋跡	おおさかふ おおさかさやましづやま 大阪府 大阪狭山市狭山	27231	-	34度 30分 02秒	135度 33分 21秒	20030702 ~ 20031031	2,300	宅地開発 に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺物				
狭山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代 (18世紀~19世紀)		キセル・寛永通宝・面子・陶器(ミニチュア急須・壺蓋・ 小形壺・小杯・段重・あろし・灯明皿・こね鉢・行平鍋)・ 磁器(小皿・鉢・小碗・中碗・小杯・酒呑・とつり・紅猪 口・仏飯器)・土師質 台付灯明皿・灯明皿・小碗・ひよ うそく・土器(火消壺・行平鍋)・湊焼甕・軒平瓦				
狭山池5号窯	生産遺跡	古墳時代~飛鳥時代 (7世紀初頭~7世紀前葉)		須恵器(蓋杯・椀・高杯・壺・短頸壺・長頸壺・ ハソウ・提瓶・平瓶・甕蓋・甕)・土師器高杯				

図 版

図版 1 狹山藩陣屋跡 03—01区 全景



a. 南東から



b. 北東から



c. 西から

図版 2
狭山藩陣屋跡近世遺構(1)



a. 北から



b. 溝38(南から)



c. 溝38(北から)

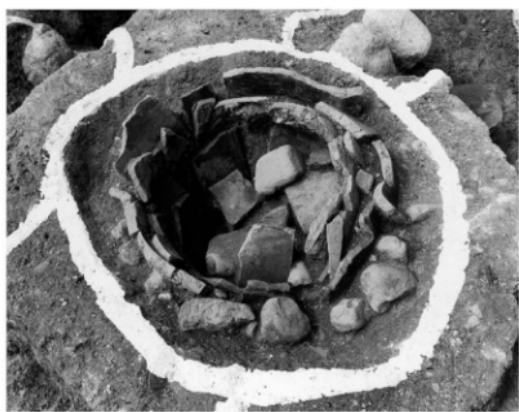
圖版 3
狹山藩陣屋跡近世遺構(2)



a. 土坑74



b. 土坑74遺物出土狀況



c. 土坑12

圖版 4
狹山池 5 号窯(1)



a. 窯体埋土堆积状况



b. 窯体全景



c. 焚口附近



a. 窯体(正面から)



b. 灰原(北西から)

図版 6 狹山池 5号窯(3)



a. 焼成床下層の遺構



b. 灰原遺物出土状況



c. 跪出土状況

図版7
狭山池5号窯灰原推積前の地形



a. 全景



b. 灰原断面



c. 灰原直下の遺構



a. 西から



b. 土坑78遺物出土状況(北から)



c. 土坑78遺物出土状況(東から)

図版9 土坑51
03—01区調査完了後の全景



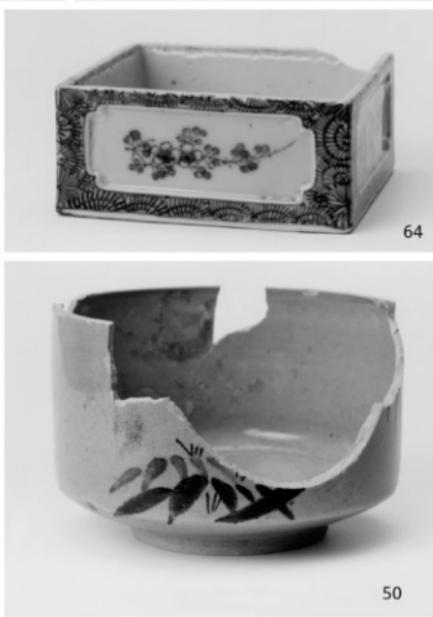
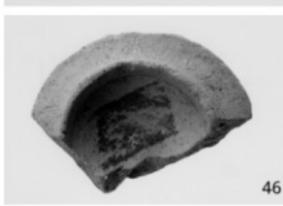
a. 土坑51
03—01区調査完了後の全景



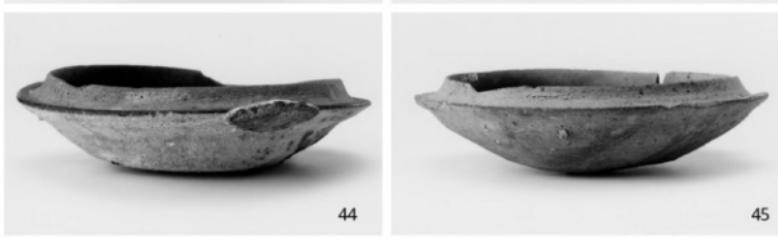
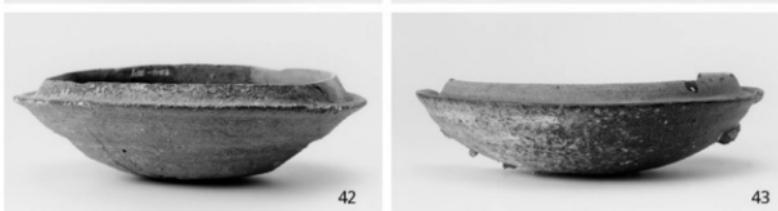
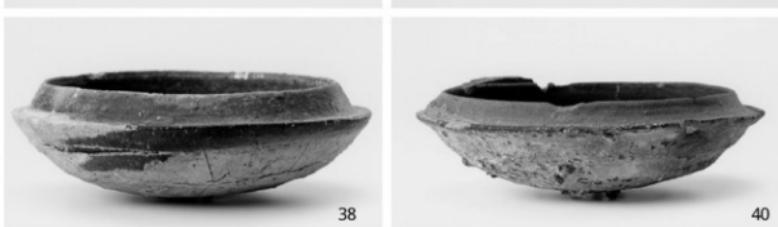
b. 土坑51遺物出土状況

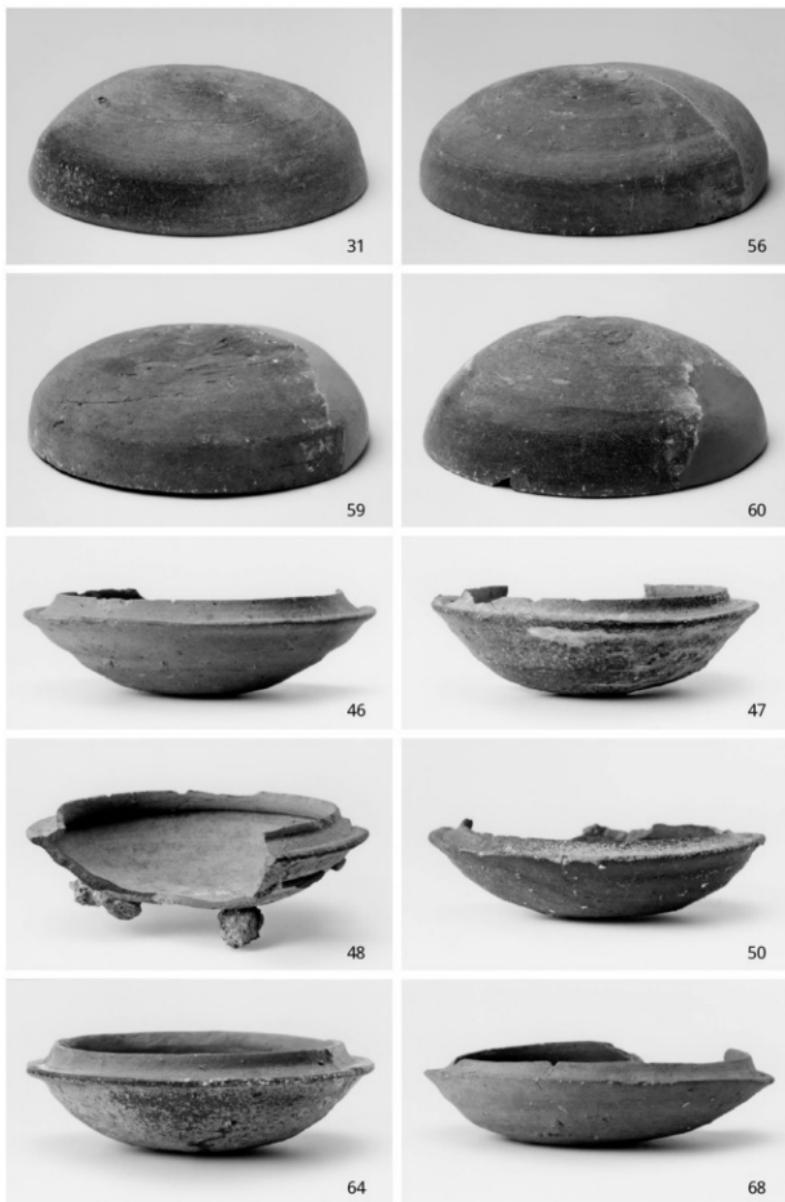


c. 調査区全景(西から)











72



75



76



79



80



85



88







112



113



116



114



115



129



130



図版 20
土坑78出土遺物



大阪狭山市文化財報告書31

狹山池5号窯・狹山藩陣屋跡

発 行 日 平成 16年 (2004年) 12月 29日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会
大阪府大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地 1号

印 刷 S T 総合広告
大阪府大阪狭山市金剛二丁目 8- 10